

第 1 回 館山市議会定例会会議録
(第 2 号)

1 昭和63年3月8日(火曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 26名

1番 脇田 安保
3番 田沢 勝信
5番 岩村 勝弘
7番 生稻 隆
9番 山口 康雄
11番 神田 守隆
13番 山中金治郎
15番 横溝 功
17番 石井 謀
19番 川名 正二
22番 黒川 平治
25番 渡辺 昭夫
27番 林 豊

2番 永井 龍平
4番 庄司二三男
6番 山崎 雅己
8番 鈴木 勝美
10番 鈴木 忠夫
12番 榎本 春光
14番 小宮 利夫
16番 石井 昌治
18番 日下 君敏
21番 辻田 実
23番 流山源次郎
26番 近藤 好雄
28番 飯田 義男

1 欠席議員 2名

20番 福原 勤

24番 松下 正己

1 出席説明員

市長 半澤 良一
収入役 山田 俊康
総務部長 飯野 芳郎
経済部長 安西 良一
教育委員会 山田 教和
委員長

助役 小倉 澄男
市長公室長 錦織 茂
民生部長 渡辺 弘
水道課長補佐 山中 通夫
教育委員会 福原 修
教員

1 出席事務局職員

事務局長 庄司 利光
書記 鈴木 哲
書記 加藤 浩一

事務局長補佐 兵藤 恭一
書記 土橋 康彦

1 議事日程(第2号)

昭和63年3月8日午前10時開議

日程第1 行政一般通告質問

開 議 午前 10 時 02 分

○議長（飯田義男君） 本日の出席議員数 26 名、これより第 1 回市議会定例会第 2 日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

行政一般通告質問

○議長（飯田義男君） 日程第 1、これより通告による行政一般質問を行います。

締め切り日の 3 月 3 日正午までに提出のありました議員、要旨及びその順序はお手元に配付のとおりであります。

これより順次質問を行います。

この際、申し上げます。通告質問者は以上のとおりであり、他に関連質問等の発言もあろうかと思いますが、本日は通告者のみといたします。

発言の方法は、最初の発言を 20 分以内とし、執行当局の答弁は時間外、再質問は答弁を含めて 30 分以内といたします。

これより順次発言を許します。

3 番議員田沢勝信君。御登壇願います。

（3 番議員田沢勝信君登壇）

○3 番（田沢勝信君） おはようございます。

今定例議会は、かつてないほど質問者が多い中で、諸先輩に先だって質問の壇に立たせていただくことを冒頭感謝を申し上げる次第であります。

さて、私は、すでに通告してあります 3 つの課題について、順次質問いたしたいと思います。

私の質問の第 1 番目は、リゾート計画についてであります。

聞くところによりますと、総合保養地域整備法、いわゆるリゾート法によるリゾート開発の特定地域の指定を目指す県の動きは急ピッチに進んでいるように思われます。国の指定を目指して進められている房総リゾート地域整備構想も、総合保養地域整備に係る基本的な考え方として、この 3 月 1 日には明らかにされております。

それによりますと、特定地域面積 17 万 8 0 0 0 ㉔、関係市町村 9 市 2 5 町 3 村、重点整備地区 1 1 地区が構想されております。そして、これらの地域設定理由については、総合的なリゾート整備の具体化に向け、国の施策等とも対応しつつ、現段階における現実的な民間の動向、熟度を勘案し、選択的に行ったとしております。

その上で、各重点整備地区における主要民間のリゾート計画を公表し、さらに今月中にも県は基礎調査をまとめ、国に提出して承認を求めているという方針のように承っております。

県が明らかにした民間リゾート開発計画の中では、館山市を開発対象区域とした「館山レインボータウン計画」、「TAIYO KAIGAN 平砂浦計画」の 2 つの計画がありますが、その事業規模からいって県内最大の民間プロジェクト開発として公表がされております。

本リゾート開発は、民間活力の活用といわれるだけに、その開発内容、その開発が当館山市の地域振興にとって具体的にどのような役割を果たすのか、あるいはリゾート開発に伴う公共負担のあり方など、市民の重大な関心事であります。

そこで、具体的にお尋ねいたしますが、まず最初に、計画のある「館山レインボータウン計画」の概要について明らかにしていただきたいと思ひます。

次に、「TAIYO KAIGAN 平砂浦計画」の概要についても明らかにしていただきたいと思ひます。

次に、これらのリゾート開発計画の開発効果については、どのように考えておられるのか明らかにしていただきたいと思ひます。

また、これらの民間プロジェクトを中軸にそれぞれの地域整備も進められるわけですが、その整備のための公共負担はどのようなものか、現時点で想定されるもので結構であります、明らかにしていただきたいと思ひます。

次に、第 2 の質問に移りますが、駅前周辺市街地整備事業についてでございます。

駅西口の再開発については、この間数回にわたり質問、要望も具体的に行ってまいりました。例えば、再開発にあたって区域内にある北条市

営住宅の取り壊しに伴う市営住宅総戸数確保の問題、この問題については現在建設が進められている真倉での市営住宅建設でも明らかとなり、質問当時の市営住宅総戸数は減らさないという約束どおりであります。また、駅前の市営自転車置き場の拡大を要望した際、市長は、西口再開発の際に相当規模の自転車置き場を設置したいと約束されているところでもございます。さらに、開発区域内の小規模宅地に係る減歩率の問題についても質問してきたところでありますが、これらの宅地については50坪以下は減歩しないという市の方針も明らかにされました。

さて、西口再開発は、この2月23日にはその都市計画が県都市計画地方審議会でも認められるに至っております。さらに、市長は、63年度施政方針の中で、本年度は事業計画を作成し、事業認可を受けるとともに、実施計画の作成、減歩率を緩和するための用地先行取得を推進し、土地区画整理事業の着実な前進を図ると述べておられます。62年度最後の補正予算にも西口地区土地区画整理事業に係る市街地整備用地購入費7085万7000円が計上され、さらに63年度予算にも用地取得費が計上されているわけでありましたが、この間市長の約束されてきた平均減歩率20%の目標達成がこれで可能なのかどうか、いまひとつはっきりいたしません。63年度には事業計画の作成、その認可、そして実施計画の作成まで進むわけでありましたが、それまでに市長の約束された平均減歩率20%、そのための用地取得の達成見通しについてどのように考えておられますか、市長の所見をお聞かせ願いたいと思います。

次に、東口の再開発についてであります。

市長は、施政方針演説で、地権者との協議をより一層積極的に実施し、合意形成を図った上で地元を誘導するための基本計画の検討を進めていくと述べられております。さらに、この件に関する新年度予算案を見ますと、基本計画の見直しとの説明項目があるわけであります。今回の基本計画の検討、いわゆる基本計画の見直しは東口再開発を進めていく上で必要な市長の英断の一つであろうと理解するものでありますが、改めてその目的について市長からお聞かせ願います。

また、東口の再開発に関しては、その計画の根幹をなす幾つかの柱があります。今回の基本計画の見直しとはどのような点について見直して

東口再開発の合意を得ようとするものなのか、市長の所見をお聞かせ願いたいと思います。

最後に、第3点目として、62年度決算見通しと、あわせて幼稚園入園料、そしてまた国民宿舎利用料金の値上げの問題について伺います。

昨年の61年度決算審議でも問題になりましたが、市の会計の4億にも及ぶ黒字に対し、市民の常日頃の身近な要望が財政、つまり予算がないことを理由に実現してもらえないという行政の問題が議会で取り上げられました。

新年度予算を見て、とりわけ幼稚園の入園料の値上げ、すなわちこれまでの入園料6000円から7200円という20%もの値上げは急を要するものなのかどうか、極めて疑問に思うわけであります。安房郡市で幼稚園入園料を取っているところは館山市だけという現状でもあります。

さらに、国民宿舎の利用料金については、これまで宿泊利用者の多い夏季、年末、年始、土曜日等を基準額として、平日については基準額より400円安くしておりましたが、改定案では、平日料金をなくしてすべて夏季、年末、年始、土曜日等の基準額にするとしておりますが、時勢への逆行を感じるものであります。1年間を通じ、どう平日の利用者をふやし経営の安定強化を図るのかという課題は、国民宿舎のみならず観光行政を進めていく当市の重点課題でもあるわけであります。そういった観点から見ると、平日料金を安く設定してあること、また60歳以上の市民の方の国民宿舎利用について割引証の交付の実施も平日利用を確保していく努力の一つではなかったのかと考えている次第であります。

そこで、質問を具体的に申し上げます。まず、62年度一般会計の決算見通しはどのようになりますか。次に、当市の幼稚園の入園料は他市に比べて高過ぎると思いますが、どのようにお考えかお聞かせ願います。さらに、国民宿舎についてはこれまで国民宿舎事業特別会計は赤字であります、その原因はどこにあるのか、そしてそれに対する対応策、特に収入をふやす努力はどのようにされてきましたか。とりわけ、利用者

をふやすこれまでの努力についてお聞かせ願います。また、今回の値上げで平日利用客の減少になりはしないか、逆効果になりはしないかという心配があるわけでございますが、どのようにお考えかお聞かせください。また、国民宿舎の修繕から7年余を経るに至っておりますが、痛んだ箇所も数多く見受けられます。これらの修繕計画についてはどのように進めていくのかお聞かせ願います。

以上、さきの市長の施政方針をお聞かせいただいて、3つの点について御質問を申し上げましたが、市長の具体的な答弁をお願いを申し上げます。答弁によりまして再質問をいたしたいと思います。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 田沢議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1点、リゾート開発計画についてでございます。

その小さな第1点、「館山レインボータウン計画」の概要についての御質問でございますが、計画地域といたしましては、館山地区から西岬地区の林間部にかけてでございます。事業内容といたしましては、スポーツ・レクリエーション施設、教養文化施設、宿泊施設等が計画されております。

本計画は、民間事業者により提案されたものであり、現在検討中でございますので、今後、県や関係諸団体等と協議しながら、海洋性リゾートタウン計画と整合を図りつつ、推進する方向で考えております。

小さな第2点、「TAIYO KAIGAN平砂浦計画」の概要についてでございますが、計画地域といたしましては、神戸地区の林間部と富崎地区の海浜部でございます。事業内容といたしましては、スポーツ・レクリエーション施設、集会施設、販売施設、宿泊施設等が計画されております。

本計画につきましても、「館山レインボータウン計画」と同様に対応してまいります。

第3点、リゾート開発効果についてでございますが、民間活力を活用した総合的なリゾート開発計画を策定中でありまして、その効果につきましては現在検討中でございますので、予測により御答弁申し上げます。

まず、リゾート開発の建設段階におきまして、用地取得等のため民間資金が投下され、また建設業の活況が図られます。次に、リゾート地形形成後にありましては、地域経済効果といたしましてリゾート産業及び観光産業の振興並びに関連産業といたしまして農業、漁業、商業等の振興、さらに雇用の増大、若者の定着化が図られ、行政におきましても税収の増大を図ることが期待できます。

また、波及効果といたしまして、リゾート整備によりまして本市のイメージ向上、イベント等の開催による人的交流が盛んになり、これらの効果によりまして地域活性化が図られ、本市の地域振興が実現できるものと考えております。

次に、小さな第4点、リゾート開発に伴う公共事業負担についてでございますが、さきに御答弁いたしましたとおり、開発計画を策定中でございます。公共事業負担、特に館山市が負担すべき事業について検討中でございますが、その主要事業は、上下水道、道路、公園、文化施設等でございます。

また、高質なリゾート地創出のため、環境整備等の公共事業につきましても検討を進めてまいりたいと考えております。

次に、大きな第2点、駅前周辺市街地整備事業についてでございます。

その小さな第1点、西口の減歩率緩和のための用地取得の見通しについての御質問でございますが、事業計画作成時までに目標達成ができるかどうかという御質問でございますが、御案内のとおり、この事業につきましては従来から減歩率緩和のための用地先行取得を行い、今後約3000㎡ほどの用地取得が必要でございます。このため、現在確実に市に売ることを前提にして話し合いを進めている権利者を含めて数人の権利者と交渉中でございます。

一方、63年度には、事業計画を作成し、早期に事業認可を得たいと考えておりますが、現段階では必ずしもその時期までに目標面積を取得できるという状況にございませんが、少なくとも64年度に予定しております換地設計時までは取得すべく、引き続き権利者との積極的な話し合いを続けてまいりたいと考えております。

次に、小さな2点、東口の基本計画の見直しの目的についての御質問

でございますが、現在は再開発事業の合意形成を図るため、地権者との協議を進めているところでございます。幸いにしてこの協議が整い次第、一日も早く事業化への事務手続として都市計画決定をしようとするものでございます。

今回の基本計画の見直しという言葉は、本来言葉が適切ではなかったかと思いますが、この都市計画決定を行うための基本計画を作成することを目的としており、具体的には再開発事業により建てられる建築物の計画や区域の範囲等がその主なものでございます。

これらの計画は、地権者に大きな影響を与える問題でありますので、より一層地権者との協議を行い、具体的な計画をまとめて作成してまいり所存でございます。

次に、大きな第3点、その第1点は、昭和62年度の決算見込みについての御質問でございますが、歳入につきましては市税収入の動向、歳出につきましては老人保健特別会計への繰出金等、執行状況がかなり流動的でございますが、歳入総額はおよそ105億3000万円、歳出総額103億1000万円、歳入歳出差し引き2億2000万円程度は見込めるものと考えております。

次に、幼稚園の入園料の値上げについての御質問でございますが、公立幼稚園運営のための入園料につきましては、従前より国の基準に合わせて改定をしております。現行入園料6000円は61年度に改定いたしました。地方交付税算定基準が62年度から改定されたことに伴い、1年遅れの63年度から7200円に改定をお願いしたいと考えております。

次に、国民宿舎利用料金の値上げに関する御質問でございますが、第1点の赤字原因につきましては、昭和55年改築以来、営業収支におきましては毎年度黒字を計上しており、昭和61年度決算では営業利益1770万4000円を計上しているものでございます。しかしながら、改築時に際しての企業債4億650万円の償還利息に2465万円を要しているため累積欠損金が発生し、これが経営悪化の大きな原因となっているものでございます。

なお、昭和63年度以降におきましては、さきの12月定例会にお願い

いをいたしました企業債の一部繰り上げ償還によりまして、経営の健全化が図られるものと考えております。

第2点の、誘客等の対応についてでございますが、従来の日本交通公社との誘客契約のほか、昭和58年に有志宿舎36荘によりまして国民宿舎予約センターを東京に設置いたしました。都心からの予約の確保に努めております。また、昭和59年度からは千葉県公立学校教職員互助会、昭和61年度からは千葉県職員互助会の指定を受け、宿泊料の一部を団体等が負担することにより、さらに低料金で御利用いただけるよう利用の拡大に努めております。

一方、平日における利用の増加を図るため、昭和57年からラッキーセブンカードの発行により、県内宿舎共通に、7回利用したお客さまを1泊無料とする制度を継続し、特にセールスマン等の利用が定着しているのが実情でございます。

このほか、市民の皆さまにも広く御理解をいただくため、昭和61年10月から60歳以上の市民の方々に利用割引証をお配りし、御好評をいただいているところでございます。

第3点の、今回の値上げが逆効果とならないかという御質問でございますが、普通室料金4800円は民宿料金と比較して差異はありませんので、逆効果とはならないと考えております。さらに、料理の改善等、サービスの向上に努め、一層の努力をしていく所存でございます。

第4点の、建物の破損についてでございますが、改築以来7年を経過し、各所に補修の必要が生じております。客室の畳については本年度で表がえを終わり、廊下等の塗装、客室内の壁紙の破損につきましては、全室の補修を行うべく、昭和63年度予算に計上をお願いいたしまして、整備をするところでございます。

以上、答弁を終わります。

◎3番（田沢勝信君）　まず、第1点目のリゾート開発の問題ですが、どうも市長の説明によりますと、まだ極めて不十分にしかわかりません。

手元に資料があるんですが、千葉県の議会の中に観光リゾート開発研究会がございますけれども、この研究会に、県が千葉県のいわゆる今回

のリゾート地域、特定地域、重点地区、この区をどこにしようかということで、その基本的な考え方を示した資料がございます。これは公表されている資料ですから、それに基づいてもうすこしお尋ねしてみたいというふうに思います。

この資料によりますと、今回、重点地区の中に館山が入っておりますが、この地域の設定理由をこういうふうに言っております。「現段階における現実的な民間の動向、熱度を勘案して選択的に行った」ということで、民間の先ほど私が質問申し上げました2つのプロジェクトが紹介をされております。この民間のプロジェクトにつきましても、先ほどの市長の答弁よりはるかに詳しく出ているんです。確認してみたいと思いますが、これは新聞にも載っていることなんです。3月2日の毎日新聞には全文が掲載をされております。

私が、この内容を質問したのは、館山の地域の方々が今回のリゾート開発にあたって自分たちがどうなるのだろうか、一緒に自分たちも振興ができるのだろうか、そういう意見を多くの方が持っているから質問するんです。

それでは、紹介してみたいと思いますが、例えば「館山レインボータウン計画」、これの開発対象区域は先ほど市長さんから説明があったように、西岬地区の林間部ということです。開発面積が242㌔、そして、総事業費が800億円、開発主体——いわゆる民間の参加企業ですね、大林組というふうになっています。もう一つの、「TAIYO KAIGAN平砂浦計画」の開発対象区域は先ほど市長さんが言ったとおりだというふうに思います。開発面積が250㌔、総事業費が600億、参加企業が熊谷組というふうになっておりますが、このとおりでよろしいですね。これは確認しておきたいと思います。

○経済部長（安西良一君） ただいまの田沢議員さんの御質問で、ほぼ正しいと思います。

ただ、県の場合ですと、例えば事業費等につきましては800億というようなことで、切り上げて申し上げているようでございますが、それよりも私どもが把握しているものはやや少ないということで予定されております。そのほかはほぼ同じようでございます。「TAIYO KA

「IGA N平砂浦計画」の中で、面積が250畝とおっしゃったんですが、それが227というように私どもでは伺っております。

以上でございます。

○3番（田沢勝信君） 大体、民間のプロジェクト——これは計画されているプロジェクトなんですが、これを確認していただいたわけなんです……。

その次に、開発内容について少しお尋ねしたいんですが、地域振興には密接にからむ問題だというふうに思います。今、県の方で基本構想をつくるための基礎調査をやっていると思うんですが、この基礎調査の中には、特定民間施設の種類、位置に関する事項、こういうのも入っていると思うんです。先ほどの説明によりますと、スポーツ、宿泊施設、レクリエーション施設、そのような説明があったんですが、計画されている特定の民間施設はどのような内容ですか。例えば、スポーツ施設、これにヨットハーバーが入るのか、ゴルフ場なのか、それともテニス場なのか、いろんな施設があらうかと思うんですが、どういう施設なのか把握されていると思いますので、説明願いたいというふうに思います。

○経済部長（安西良一君） これは実際に事業を実施する段階までには、まだいろいろと修正が加えられてくるとは思いますが、現段階での御説明ということで御了解願いたいと思います。

現段階での計画といたしましては、大林組の方がホテルとクアハウス、それにゴルフ場、それからスポーツ施設——これはテニスコートだとか、そういうものでございます——それと店舗ゾーン、こういうものが予定されております。

それから、「TAIYO KAIGAN平砂浦計画」でございますけれども、これの関係ではホテルとゴルフ場、それに総合グラウンド——そのほかのスポーツ施設という意味でございます——それと、サイクリングロード、あるいは研修センター、ショッピングセンター、それにマリーナ、あるいはマリーナショップ、こういったものが計画されております。

以上でございます。

○3番（田沢勝信君） 大変なことだというふうに思います。

もちろん、地域振興と密接にからんで、これ以降具体的に進められていられるのかなというふうに思います。しかし、私が思いますのは、これは市長さんをお願いをしておきたいんですが、実は、こういう民間の開発計画はすでにあったわけです。ところが、このリゾートの開発を何とかしようと大変議会側も心配されて、地域振興の特別委員会をつくっているんです。それで、25日に第1回目の委員会をやったと思うんです。ところが、この委員会には一切こういう民間の具体的な計画が公表されない。そして、突然県の方から公表される。

これでは民間活力を活用して地域振興に役立てる——実際にこの民間プロジェクトを地域振興に役立てるためには既存の旅館、あるいは民宿、いわゆる観光を発展させようということ、市としても多大な投資をしてきたと思うんです。山本のテニス場、あるいは西岬のテニス場、こういうテニス場の造成に対しても多額な補助をしてきたと思うんです。これらの関係と今、事業内容で説明されたゴルフ場、あるいはまたテニス場、もろもろの計画がありますが、どう調和を保って実際に進めていくのか、詳しい情報がなければ議会としても論議がなかなかできませんし、力になれないと思うんです。そういう意味でこういった情報は議会の側にも速やかに提供すべきだというふうに思うんです。これは市長さんに強く要望をしておきたいというふうに思います。

それと、2番目に、開発効果については、まだ全体の構想ができていないのでその概要しか言えない、一般的な説明を受けたわけですが、これは今後具体的にになった段階で明らかにしていただきたいというふうに思います。これもできないわけではないんです。

3つ目の公共負担のあり方について質問いたしますので関連してやりますけれども……。公共負担のあり方、実は県の方が3月いっぱいには地方から集約しようとする基礎調査、この中にいわゆる今回のリゾート開発に伴う公共施設の整備の方針に関する事項、こういう調査項目も入っていると思うんです。実は県は3月までにこういう基礎調査を集約して国に提出するということに言っているんです。それで、今の段階で公共負担が幾らぐらいになるのかわからないということでは話になりませんよ。現段階でどのくらいになっているんですか。どういうことを考える

んですか。県は3月に出すと言っているんですよ。きょうは3月8日ですよ。この点についてはもう少し詳しく説明してください。

◎経済部長（安西良一君） 先ほど、市長の方から御答弁がございましたように、現段階では、公共施設整備に要する費用というような面につきましては現在検討している段階で、まだ数値等は出ておりません。

以上でございます。

◎3番（田沢勝信君） 現在、検討中で数字が出ていない——これはいつまでに出すんですか。

◎経済部長（安西良一君） ちょっと私、時期までは把握しておりません。今の段階ではとにかく公共的なものがどれくらいかかるということでの試算の段階に入っているということだけでございます。

以上でございます。

◎3番（田沢勝信君） 公共施設の負担がどのくらいかかるのか試算の段階だということなんですが、県の方が今、基礎調査をやっているわけですね。3月いっぱい集約して国に上げるとのことなんですが、館山は間に合わないということですか、期日がわからないということは。それともこの基礎調査の中にはそこまでは入っていないということの理解ですか。

◎経済部長（安西良一君） 現在の市の方から提出してあるものにつきましては、いわゆる会社側から、民間企業がどこそこに進出をしたいということで、それを受けまして重点整備地区内の適当なところであるならばいいということで、そういう一つの枠の中でプランが立てられて、しかも計画が適当であるというものについて一応まとめて出してあるということでございます。市町村の段階でいつまでそういう公共事業についてのものを出しなさいというような正式な文章は来ておりません。——まだ、正式に県の方からは求められてはおりません。

◎3番（田沢勝信君） 県の方から具体的に求められてないということなんですが、私の理解はもう少し違うんですが……。

国の承認を求める基本構想を県でつくっているわけです。この基本構想の中には特定地域の区域——どこの区域にしますか、あるいは特定地域の整備に関する事項、もう1つは重点地区の区域及びその区域の整備

の方針に関する事項——これは県の方も一定の方向が出ましたね。まだあるんです。重点地区において整備されるべき特定民間施設——これも先ほど経済部長さんが説明されましたが出ましたね。その位置、種類ですね。もう2つあるんです。公共施設の整備の方針に関する事項、これも基本構想の中には入れなければいけないんです。もう1つ、関連して実施される農用地の整備に関する事項——さまざまな自然公園だとか農地とか規制がありますから、今回のリゾート開発にあたってどういう問題があるのか、その事項を出しなさい、その他——これらを入れて基本構想がつくられていると思うんです。

国は、この基本構想の基礎調査を県でしなさいということで、今は基礎調査をやって、この特定地域の区域、重点地区の区域、これを現実的な民間プロジェクトがあるかないかということで、重点地区を11地区にした、特定地域を17万8000人にした、そういう方向でいく、その後の事項は3月いっぱいには基本調査をまとめて国に出します、そういうふうになっていると思います。そのように、県の方の動きは。

市の果たす役割なんです、特別委員会に提出された資料を見てみると、基本構想の調査が市の仕事としてあります。もう1つ具体的に言いますと、民間企業の誘導、開発の調整がある。もう1つは、民間のプロジェクトに合わせて地区整備の方向を出すのも市の仕事ではないかというふうに思うんです。合わせて、公共事業をどのように整備していくのか——先ほどお話があった道路をどういうふうにするか、公園をどういうふうにするのか、この間、話もありましたが、水をどういうふうにするのかとか、そういう課題が市の仕事としてあると思うんです。

ですから、私は、この時点になってまだ公共負担がどのくらいかかるのか試算はしているけれども出せない、このような状況では県もとても国に対して基礎調査を3月いっぱいに出せないんじゃないですか。その辺はどのようにお考えになっておりますか。

○経済部長（安西良一君） 今、田沢議員さんがおっしゃるような細部的な面は、私どもの方には要求はございません。

ただ、県の動きといたしますと、特定地域の指定、あるいは重点地域の指定、こういったものについては一応まとめまして、そして3月いっ

ばいには国の方に上げたいということで今、鋭意努力をしておるというような段階でございます。

○3番（田沢勝信君） 県の方から細部について来てないということなので、これ以上進めても話が進みませんので、この点に関しては打ち切りたいというように思いますけれども……。

最後に、もう1つだけこの件についてお聞かせ願いたいんですが、先ほどの事業内容の民間プロジェクトの事業内容の説明がありました。例えば、テニスコートをつくるとか、ゴルフ場をつくるとか、いろいろゴルフ場についても問題がないわけではありません。ただ、少なくともいろんな宿泊施設だとか、テニスコートだとか、既存の民宿や旅館、これらとの関係がどういうふうになっていくのか、この民間プロジェクトがどのぐらい明らかにされて関係者と話し合われているのか、その辺の状況について最後に説明願いたいというふうに思います。

○経済部長（安西良一君） まだ、企業側とそれからいわゆる直接関係のある宿泊業者、こういった方々と具体的に話し合いを持ったということとはございません。ただ、市側といたしまして、民宿業者あるいは旅館業者、こういった方々と今、「リゾート開発についてはこういうような動き方をしております」、それと「リゾート開発という趣旨はこういうものでございます」というような趣旨の説明をしておるというのが段階でございます。詳細にわたりましては、まだまだこれからということでございます。

以上です。

○3番（田沢勝信君） 最後に、市長さんにお尋ねしますが、まだ関係団体と具体的に話し合ったことはない、一般的な意味でリゾート開発がこういうものだという話はしたことがあるけれども、具体的な話はしたことがないということなんですが、流れは、特定地域が県で指定されて、重点地域にも指定されて、県は国に基本構想の承認を求める、どんどん進んでくるんです。このメインは民間プロジェクト、県もそういう認識ですから、私が市長に聞きたいのは、こういう具体論でやはり関係者の皆さんと協議を進める必要があると思うんです。でなければ、今回のリゾート開発で地域振興が図られるなんていうのはありませんよ。ことし

の1月ですか、2月ですか、市が特別広報出しました。何とかパフォーマンスというのを、住民パワーですか、そういうタイトルが出た広報出しました。あれの中でも市長さんはっきりおっしゃっているじゃないですか。民間の皆さんの力を借りて地域振興を図っていくんだというふうにおっしゃっているわけですが、具体論で関係者と話し合う必要があると思うんですが、この辺いかがですか。

◎市長（半澤良一君） 先ほどから経済部長が御答弁申し上げておりますように、この計画はあくまでも、まだ本当にアウトラインの段階で、具体的にじゃあどこに、どういうふうに施設をつくるのか、あるいは宿泊施設にしてもどんな建物、どんなふうにつくるのかというアウトライン程度しか示されていないわけで、まだまだ民間団体と話し合うという段階にまで至っていないわけで、ただ「こういう計画がありますよ」、「リゾート法というのはこういうものですよ」という説明しか今できない段階でございます。今後、この計画がある程度煮詰まってきた段階で地元あるいは各団体といろいろ話し合っただけで計画をつくり上げていく、あるいはこちらから企業側に要望する、そうしたことでなければ進まないというのが現在の段階でございます。

◎3番（田沢勝信君） かなり民間のプロジェクトの事業内容も出ているわけで、私は、出ている内容で地域の皆さんと話し合いを進めながら、整合性のとれた開発計画を立てていくという立場に立ってほしいというふうに思います。

時間ありませんので、次に移ります。

駅前周辺の開発の問題なんです、西口については64年の換地の段階までにいわゆる減歩率を何とか20%までにもっていきたいということなんです、ぜひ事業の実施設設計の段階ぐらいまでには減歩率20%にやれるんだ、そういうふうに努力をしていただきたいというふうに思います。

それから、東口の問題なんです、これは事業地域の見直しとあと建物の問題、いわゆる共同店舗の問題かというふうに思いますが、地権者からもたびたび不安が出されてしましたし、十分地元の地権者の皆さんと話し合いを進めながら合意を得て進めていく必要があるかというふ

うに思います。

それで、最後の幼稚園の入園料の問題について、これは答えになっていないんです。私は、安房郡市は入園料は取っていない、千葉県下他市に比べても入園料は高過ぎるんじゃないのか、しかも今年度決算からいっても2億強の黒字、先ほど市長の答弁は施政方針で言ったとおりですね、国の交付税の算定基準に合わせて上げた、これでは答弁になっていませんよ。これについて私は高過ぎるというふうに思っているんです。市長さんというふうにお考えなのかお聞かせ願いたいというふうに思います。

○市長（半澤良一君） 入園料だけをとれば確かに高いということが言えるのかもしれませんが、やはり保育料全体で言いますと、館山市の場合、決して高くはなっていないというふうに理解をいたしております。また、入園料を取るということは、国が交付税算定基準にこういうものを取るようになっておりますし、受益者負担という観点から取るべきだと考えます。

○3番（田沢勝信君） 県全体の中で、入園料、保育料含めれば必ずしも高くないというお話なんです、安房郡で見えますと、鴨川が保育料が3000円、入園料がなしです。全然やっぱり違うんです。今、市長さんがいわれたように、受益者負担だから国の定めた基準は取るべきだ——これはないと思いますよ。一体全体、1200円入園料上げて収入が幾らになるんですか。幾らにもなりませんよ。2億の黒字があるんですから、何も急を要するような値上げじゃないですよ。私は、強くこの値上げについては撤回を申し入れて、私の質問を終わりたいというふうに思います。

○議長（飯田義男君） 以上で田沢勝信君の質問を終わります。

次、1番議員脇田安保君。御登壇願います。

（1番議員脇田安保君登壇）

○1番（脇田安保君） 私は、すでに通告してございます4点にわたって御質問申し上げます。

まず、第1点目の地震対策についてでございます。

関東大震災以来の最悪を本県にもたらした昨年12月17日の県東方

沖地震による被害状況は、人的被害、死者2名、重軽傷者26名、軽傷者118名、家屋の全壊16棟、半壊102棟、一部損壊7万1212棟、道路1832カ所、文教施設682カ所、がけ崩れ434カ所、河川176カ所、ブロック塀等破損2792カ所であります。こうした全県下にも及ぶ大規模な災害は、今後も順次発生する可能性が大きいのであります。

そこで、今回の地震での問題点を拾ってみますと、まず危険箇所のことですが、地震災害等が起きると騒がれるのですが、塀あるいはブロック塀、あるいはがけ崩れ等、危険箇所が多いと思われます。今回の地震でブロック塀の倒壊による死傷者も出ました。当市でも大谷石の倒壊、幸いにも人的な害はなくて、ブロック塀の危険性は市原市の主婦2人が下敷きになった事故例のように手抜き工事に起因することが大きいとされています。53年度から60年度にかけ12の特定行政地を除いた地域について県が独自に小中学校のスクールゾーン沿いのブロック塀を点検したところ、何らかの不備があったものが8割発見されたということです。特に、危険な状態だったとして文書で改善を指示したものは500カ所に上ったようです。

そこで、質問であります、当市の学童の通学路においてのブロック塀等の危険箇所は何カ所あるのでしょうか。どうか実態を掌握なさっていると思いますので、その点をお伺いいたします。

次に、防災組織のことですが、私は昨年9月議会で取り上げましたが、このような災害が起きましたので再度お伺いいたします。先輩の石井さんの質問で、59年3月の議事録を見ますと、「自主防災組織は何年ごろまでに全市的に市民に理解をさせてつくっていくのですか」との問いに対して、「60年度末までには100%の結成を目標といたしまして努力をいたしたい」との答弁でしたが、現在はこれらに関してどのような組織の体系ができているのか明らかにしていただきたいと思います。これが質問の第2です。

次に、地震発生時の行動と市民のアンケートを中心に質問を行います。市川市では300人を対象に「地震をどのように感じたか」というアンケートの答えは、50%の人が大変恐ろしかった、またほとんどすべて

の人が恐怖感を抱いたということです。そして「地震のときどのような行動をとったか」に対して、全体の25%の人が火の始末をしたというように、5人に1人が身の安全を図っています。中にはあわてて何もできなかったという人が50人と10%もおったそうです。

松戸市のアンケートにおいては、120人を対象に、「非常に恐ろしかった」、「恐ろしかった」というのが全体の85%であり、「火の始末をしたか」という問いに対して、火の使用者45名中、「始末をした」が40名の95%だったそうです。

銚子市においては、70名を対象に「非常に恐ろしかった」、「恐ろしかった」が全体の88%で、ほとんどの人が恐怖感を抱いています。火を使用していた人は、14名のうち火を消した人は13名となっています。

安房郡市の100名を対象としたアンケートでは、「地震発生時あなたはどうか」の問いに対して、「外に飛び出した」35%、「様子を見ていた」63%、「物陰に隠れた」2%であります。「大地震のとき心配なものは何ですか」の問いに対しては、火災が63%、食糧が13%であり、火を使用していた人13名中、火を消した人は12名でありました。このアンケートでは火の始末をした人々は多かったが外に飛び出した人も多いのが実情であります。

私も、災害地の東金、九十九里、市原、袖ヶ浦等で実際に耳にしたことですが、家の中にいる人は家具等が倒れてどうすることもできなかった、またガス、電気あるいは火を使用していた人も消すことすらできなかったという話でした。そこで、考えることですが、電気は切れるがガスは止めることができないとのことでした。防火対策でよくいわれることですが、地震は火災の発生がなければ安全性が高いわけであります。

そこで、質問ですが、万一、地震と火災が同時に発生した時点におきまして、どのような手順で対策が行われていくのか御説明願います。

次に、学校防災に関する質問ですが、県教育委員会が県立学校166校のうち102校がガラスの破損だったそうです。このような被害が起きたわけですが、幸いにも当市各学校では災害は発生しませんでした、何人かの児童は体育館におったそうですが、ガラスがすごく音をたてて

いて今にも落ちてくるようでとても恐ろしかったそうです。

そこで、このガラスの破損防止について現在どのような対策がとられているのかお答えを願いたいと思います。

第2点目の質問に移ります。南房総館山が持つ自然の美しさを生かし、海に親しみ、海に遊ぶという施設は種々あります。また、それらの施設を生かして首都圏の人々にとって魅力ある地域にしていくことが大切であるということは常々叫ばれているところです。

さて、本論に入りますが、近年はモータリゼーションの時代になり、観光客のマイカー利用は年を追うごとに増加をしているが、道路交通網の整備の立ち遅れが観光の発展に大きなネックとなっております。

そこでお伺いしますが、館山バイパスは64年度には全線開通とのことですが、その先、富山町を通過するバイパスは何年後なのでしょう。全線が開通することは観光振興の面で重要かと思われます。

次に、考えられるのは観光施設であると思います。当市には南房パラダイス、城山公園、観光イチゴ園等々ございますが、私も市民の人々との対話でよく耳にするのですが、鴨川市と当市を引き合いに出される人々は多いございます。また、館山市でイチゴ狩りをして、次に何を見ようかとすると鴨川市のシーワールドとの話になるそうです。こうした事例から見ると、当市も民間の観光企業を積極的に導入する方向を考えてもいいのではないかと思います。この点市長のお考えをお聞かせください。

次に、観光という面から大切なことは、海の汚染防止であると思います。海の汚染は河川、河川の汚染は各家庭から排出されるところの生活雑排水にあるのではないかとということで、何度となく議会で取り上げられておるようです。

そこで、質問であります。現在、市内に流れる河川の汚染状況はどのように調査をしていますか。また、その汚染の原因としては、家庭の雑排水のほかにはどのようなものが考えられますか。市長の見解をお聞かせください。

次に、同じく観光に関する質問であります。公衆トイレのイメージを一新したらどうかという提案であります。私の調査によりますと、観

光都市伊東市で新しい観光シンボルとして話題を集めていますのが、さまざまな趣向を凝らした公衆トイレです。テレビのクイズ番組などで紹介されましたが、その斬新なアイデアが注目されておりました。公衆トイレといえば臭い、汚ない、使わずに済めば幸いというように悪いイメージが圧倒的に多い、ましてや観光地ではこうしたトイレがかえって観光ムードを台なしにすることと思います。快適な公衆トイレを提供することは観光都市としての欠かせない行政サービスであると思いますけれども、いかがなことでしょうか。特に、観光地にふさわしい外観に加え、悪臭防止へ近代的な水洗トイレを設置するという施策について、当局のお考えをお聞かせいただきたいと思います。

3点目であります。米の生産過剰から農林水産省では63年度の政府買い上げの予約限度数量を全国の枠で667万㌧といたしまして、62年度より26万㌧の削減をしました。これは63年度に需給ギャップを調整する必要があります30万㌧のうち学校給食の拡大などで対応できる4万㌧分を除いたもののようです。国ではこの限度数量の削減分を、1、多用途利用米の拡大、2、米の消費拡大、3、転作、の3通りの方法で達成できるように米需給均等化緊急対策を打ち出してきております。

これによりまして県へは26万㌧の緊急対策配分数量のうち7480㌧が割り当てられてきました。これは千葉県水田の生産率で逆算しますと、約1600㌧分の削減配分のものであります。したがって、7480㌧分は政府買い上げの対象外とされているために、これに相当する分を県内で独自に消費拡大をしなければならないようです。

また、予約限度数量の削減相当分が消費されない場合には、生産をあらかじめ抑制する減反での対応を求めていることを意味しておるようです。実質的には1600㌧の減反割り当ての増加とも受けとられます。

これは62年度から改めてスタートした水田農業確立対策が、62年度から64年度を前期対策として減反面積を固定させたことと、前期対策がそれまでの水田利用再編成対策時に比べまして千葉県では減反面積が一気に40%近くも増加したため、これ以上減反をふやせないという配慮もあったかのように思われます。

しかし、消費拡大という名目で各県市町村に余剰米対策を迫っても飛

躍的な消費拡大は不可能に近く、事実上の減反割り当ての増加であるとの側面は否定できないようであります。

そこで、質問ですが、政府の減反政策にとって毎年問題になるのは地域及び個人にとってのその達成率のいかにかかっているということですが、減反した農家は一体何を植えるべきなのか、作物は何を選択すべきなのか、極めて悩んでいるのが現状であります。一人当たりの耕作面積も限度がございます。こうした減反政策について市長は基本的にどのように考えておりますか、その所信をお伺いいたします。

次に、第4点目、館山市のガイドブックの作成についての質問であります。市役所での手続は何かと面倒なことだという声をよく耳にします。

私のところに次のような市民の声が寄せられております。ここで御紹介をしたいと思います。Aさんのお話ですと、「市広報や折々のパンフレット、回覧板でのお知らせなどを見るたびに市役所全課の仕事内容とどんな相談に応じてくれるかというガイドブックでもあったら便利だと思います。ちょっと聞いて見ようかと思ってもどこに聞いたらよいのかわからず後回しにしていまいます」とのような声であります。

そこで、市役所を利用する際に、面倒な手続の方法が一目でわかる市民便利帳をつくり、市民に配布してはどうかと思います。このガイドブックには市民生活に便利な行政サービスの手続方法をわかりやすく説明するのは当然のことですが、当市の歴史や施設ガイドなどを読みやすく紹介したらどうかと思います。当市におきましては今から10年前に「歴史と文化の散歩たてやま」というタイトルの小冊子を発刊したことがあります。何ぶんにも古い施設の紹介やサービスの説明ですので現状にはそぐわないものが多いです。

そこで、新しくガイドブックを作成するのが望ましいと思うのであります。このガイドブックの作成につきましての市長の御所見をお伺いしたいと思います。

以上、大きく4点にわたり御質問申し上げましたが、市長の御答弁によりまして再質問をさせていただきたいというように考えております。よろしくお願ひします。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 脇田議員の御質問にお答えをいたします。

大きな第1点、地震対策についてでございます。

その小さな第1点、スクールゾーン沿いの塀の危険箇所の実態についての御質問でございますが、危険箇所の実態につきましては昭和55年7月のコンクリートブロック塀等点検調査結果では、28カ所のうち2カ所が危険箇所となっており、県より是正勧告が交付されております。今後も、危険箇所の点検活動を通じまして、千葉県コンクリートブロック塀等安全推進要綱に基づいて指導をまいりたいと思います。

次に、小さな第2点自主防災組織についてでございますが、各地区町内会長、コミュニティ活動を通じて説明会を開催いたしまして結成を呼びかけてまいりました。その結果、現在、組織結成率69.6%、世帯数では81.1%の組織が結成されております。大規模地震の発生が懸念される今日、市民と行政が一体となって地域の安全性を確保することがますます重要となっております。現在、未設置の地区につきましては、防災訓練等の説明会を通じ、64年度末までに100%の結成を目標にいたしまして、より一層努力を重ねてまいりたいと考えております。

次に、小さな第3点、地震発生と同時に火災が多発した時点の対応についての御質問でございますが、その際には消火活動が十分できない場合、延焼による被害の増大が懸念されるわけでございますが、万一の際、日常の訓練を踏まえて消防署、消防団との連絡によりまして、速やかに無線で全消防車両の適切な配置体制をとれるように対処してまいります。

次に、第4点、学校施設防災についてでございますが、学校防災における窓ガラスの破損防止対策については、当市におきましては、網入りガラス戸を特に生徒の多数利用する昇降口等に使用しておりますが、現在ほかの箇所への使用は考えていないのが現状でございます。

次に、大きな第2点観光振興についてでございます。

小さな第1点、内房バイパス全線開通についてでございますが、国道127号をはじめとする道路交通網の整備につきましては、大きな期待と関心を持っているところでございます。御質問の館山バイパスと鋸南バイパスの間、富浦町深名地区から富山町検儀谷地区につきましては、

現在、建設省でルートを選定作業を行っている段階と伺っております。このような状況下で開通の見通しについて言明することは極めて困難なことでございます。

今後とも、国道127号内房縦貫道路建設促進協議会を中心といたしまして、本バイパスの早期完成に向け、国等の関係機関に積極的に働きかけを進めてまいる所存でございます。

次に、小さな第2点、民間観光企業誘致についてでございますが、当市の自然環境と調和し、近隣の観光施設等との相乗効果の図れる観光施設をリゾート法との関連において積極的に誘致してまいりたいと考えております。

次に、小さな第3点、海や河川の汚染の実態についてでございますが、昭和60年度に市内河川、主要下水路を33流域に区分し、各流域ごとに流域面積、人口、浄化槽設置基数、水質汚濁防止法で規定されている特定施設、家畜頭数の調査及び水質の実測を行い、現況の水質汚濁についての調査を実施いたしました。

また、汚濁原因でございますが、人為的汚濁負荷であります生活排水、特定施設に代表される事業系排水、家畜排水及び自然汚濁負荷がございます。

次に、小さな第4点、観光発展のために公衆トイレのイメージを一新したらどうかという御質問でございますが、昭和62年度には鶴谷八幡宮境内に周囲と調和した水洗公衆トイレを建設中であり、昭和63年度には那古寺境内に水洗公衆トイレを計画いたしております。

今後とも周囲との調和、清潔感、明るさ、換気、管理面等を考慮し、観光地のイメージアップが図れるような公衆トイレの建設に努めてまいりたいと考えております。

次に、米の過剰についての御質問でございますが、大変、どうも国の農政に係る問題でございまして、難しい御質問でございますので、十分な御答弁はできかねますけれども、確におっしゃるように米は政府が食糧管理制度のもとで全量を管理しているわけでございますが、米の過剰を放置することは食糧管理制度の崩壊につながることもございますので、それはひいては農家経済に大きな混乱をもたらすわけございま

す。

昭和44年度以降、米の需給均衡を図るために稲作から他作物へ誘導する米の生産調整が実施されてまいりましたが、米の消費量は引き続き減少する傾向にあり、また稲作技術の向上などによって米の需給ギャップが引き続いて拡大する傾向にございます。こうした状況の中で、従来以上の需給調整が必要となりまして、昭和62年度から新たに水田農業確立対策の前期対策が実施されたわけでございます。

御指摘のように、本対策の転作等の目標面積は全国で77万㌦でございまして、館山市におきましては424㌦が配分されまして、この配分面積に対して102.4%の達成率をみているわけでございます。また、その転作物の実施状況は、飼料作物42.9%、豆類が13.1%、花卉8.3%、その他野菜13.9%となっているわけでございます。

本年度の問題につきましては、やはり大変難しい問題でございすけれども、国の農政の方針に従いまして転作の目標率達成に努めなければいけないというふうに考えております。

次に、大きな第4点、館山市のガイドブックの作成はできないかという御質問でございすが、本市では昭和53年に市の仕事を中心として日常生活に係る情報を掲載した「市民暮らしの手引き」という便利帳を市内各戸に配布いたしました。しかしながら、10年を経過した現在では市の仕組みや時代の変遷によりまして必ずしも十分とは申し上げられませんが、御指摘のございました市民向けの情報提供につきましては、新年度予算でお願いしております「市制施行50周年記念誌」編集の中で、市民の意見を集約しながら検討してまいりたいと考えております。

以上、答弁を終わります。

◎1番（脇田安保君） ただいま私の4点にわたる質問に関して御答弁を賜ったわけでございますが、おおむね了解するものでございます。なお、細かい点何点か御質問いたします。

まず、地震対策についてでございますが、通学路の危険箇所は28カ所中2カ所だそうでございますけれども、私の考えとしてはブロック塀が大分たくさんあるので、もう少し多いかなというように思ったわけです。2カ所ということですから、その点に対して1点お聞かせいただき

たいのは、この2カ所について何らかの改善策等を市として指示をされましたでしょうか、その点をお伺いします。

それと、防災組織ですけれども、先ほど言いましたように64年度末までに結成されるということです。ことしは63年度であります、ことしと来年2年かけて館山全市的に自主防災組織を充実されるようなことなんでしょうけれども、災害というのはいつ起こるかわかりません。ですから、でき得れば本年度中——64年度まででなくて早い時期に組織を結成されて、このような災害が起きたときに最小限度に食い止められるように、その点お願いしたいと思います。

それから、アンケートの中でありましたけれども、先ほどの市長の答弁で消防署、消防団等の、同時に災害が発生したときの対応の仕方として、無線等で指示をし、統制をとるというような御答弁だと思いますけれども、私は今回の東方沖地震において新聞等で聞かれたのが、水道が使用できないという問題点が各市町村で出てきたわけです。その点でちょっとお伺いしたいのは、消火栓とそれに関連して防火用水がどの程度の地震に——防火用水は耐震用につくられておると思いますけれども、どの程度の地震に対応されるのか、その点をお伺いしたいと思います。

以上、3点についてお願いします。

○民生部長（渡辺 弘君） お答えいたします。

まず、第1点目の、スクールゾーン沿いの壁の危険箇所の実態で、先ほど市長から答弁申し上げましたように、2カ所が県より是正勧告書の交付がなされておりますが、市といたしましては指導勧告権がございません。したがって、県によりその後指導がなされたということは聞いてはおりますけれども、現在その後の状況について確認はいたしてございません。

それから、2番目の自主防災組織の早期結成についてでございますが、現在69.6%の結成率を見ておるわけでございます。主管課でございます社会開発課が各町内あるいは区の会合等に自主防災組織の必要性、また重要性についてそれぞれお話をいたしておるわけでございますが、現実の問題といたしましては、各地区で行われます防災訓練の前に結成がされるのが実情でございます。63年度におきましては神戸地区を予

定しておりますし、また64年度におきましては豊房地区を予定いたしました、10地区すべて終わるわけですが、御指摘のございましたように市といたしましても災害時における最も有効な組織といたしましては自主防災組織でございますので、早期の結成に向けて今後より一層努力してまいりたい、このように考えております。

第3点目の、地震発生時における消防水利の耐震性についてでございますけれども、現在、御案内のように火災発生時におきます消防水利といたしましては、消火栓、防火水槽等があるわけでございます。

このうち、防火水槽の耐震性につきましては、自治省、消防庁におきまして関東大震災の調査結果を踏まえまして、防火水槽等技術指針等の作成に関する報告書が作成されまして、その設計指針により標準設計がされておるわけでございます。市といたしましてはこの指針に基づきまして標準設計により設計施工されておりますので、概念的な言い方になりますけれども、同クラスの地震規模には耐えられるものと考えております。

次に、消火栓につきましても耐震性でございますけれども、御案内のように62年の12月の17日千葉県東方沖地震が発生いたしましたわけですが、この際、震度6を経験いたしました九十九里周辺地域の実情を見ますと、水道管の亀裂、破損が生じても、バルブの閉鎖による停止等がなければ断水はなく、消火活動は使用可能であったという情報を得ておりますので、これが一つの尺度になるのではないかと、このように考えております。

以上でございます。

○1番（脇田安保君） 今の御答弁では、消火栓はこの前の地震が震度6だったので、その程度までは使用できるという、それ以上は使用不可能とのようにとれますけれども、防火水槽に関してはそれ以上の7ぐらいのようになります。

それで一つお伺いしたいのは、消防水利のことに対して1点お伺いしますけれども、消防水利の充足率ということをよく話されます。館山市全体の充足率がありますけれども、70何%ですか、これを地区別にたとえた場合にどの程度になりましょうか。その点、ちょっとお伺いた

したいと思います。

◎民生部長（渡辺 弘君） 各地区における充足率でございますけれども、70%を上回る地区といたしましては、館山、北条、那古、船形、神戸、豊房でございます。60%を上回る地区といたしましては、西岬、富崎でございます。したがって、あと館野地区の充足率は41.4%、九重地区は11.6%でございますけれども、この館野、九重地区につきましては御案内のように一部または全地域に水道未設置でございますので、消火栓の設置がいたしてございません。したがって充足率が低いということでございます。

以上でございます。

◎1番（脇田安保君） 地区別の充足率をお聞きしたんですけれども、市内水道が入っているところに関しては、充足率が、消火栓あるいは防火用水等で高いわけでございます。特に、館野、九重地域において水道施設がないということで充足率も少なくなっているわけです。

でありますので、このアンケートなどの実態でよくわかりますように、地震のときに一番心配なものは火災だというアンケート結果が出ているわけです。实际的に火を消した人たちは——90%以上の方が火を消しておるわけですが、地震災害というのは時を選びませんので、風の強い日、あるいは夜中とかです。これらの災害時に火災が本当に心配されるわけです。

要望でありますけれども、館野、九重地区には水道事業が何年か後に計画されております。この際、消火栓を数多く設置され、また防火水槽も重要であると思います。ですから、地元の要望を積極的に取り入れていただくよう要望いたします。

質問を進めたいと思います。観光振興についての再質問であります。ただいま市長の答弁にありましたけれども、私もよくその国道127号を利用いたします。特に、土曜、日曜、祭日等は渋滞が激しいわけがあります。ですから、館山の観光の発展のためにも交通渋滞等に係ることを、一日も早くバイパス等の着工に働きかけていただきたいと思いますをお願いいたします。

次に、公衆トイレであります。62年、63年に行っているようで

ありますが、私は何度かトイレに今までの——館山市も含めてですけれども——観光地等で気にかかっているんですけれども、水洗式というのはいいかと常々思っていました。それで今回このような質問を取り上げたんですが、現在つくっている水洗式のトイレに関して、このようなことはどうかと思ってたんですけれども、きれいな水洗式になるわけですが、ここにユニークな名前でも付けたらどうでありましょうかという提案です。例えば、館山ですから菜の花の里とか、磯のかわやとか（笑声）という、今までのトイレのイメージを一新するという意味で、こうしたイメージチェンジはどうでしょうかということなんですけれども、その点いかがでしょうか。

◎経済部長（安西良一君） 大変すばらしい御提案でございまして（笑声）、でき得ればこれからトイレを改修いたしました暁には、そういうようなことで名称を付けながらいけばさらにイメージアップにつながるなというふうに考えるものでございます。ぜひともそうしたいというように考えます。

◎1番（脇田安保君） 次に移りますけれども、米の問題に移りたいと思います。

先ほど、市長さんから答弁ありましたけれども、大変難しい問題だそうでございまして、私も多少これに関与しておりますので、減反をしていただく推進員の方が来られて、皆さん一人一人苦慮しているように受けとめられるわけです。市で米の消費拡大ができるという、政府がやっている——学校給食が主に取り上げられておりますけれども、そのほかに米の消費拡大はどのようなものがございしますか。

◎経済部長（安西良一君） 今、指導として考えられておりますものが、学校給食、それに純米酒等の製造用にとということ、あるいは米菓の製造、あるいは米の加工食品の開発、それから各種行事におけるおにぎり等の提供といいましょうか、そういうものでございます。それから、あと地方自治体におきますところの備蓄の問題、そのほか農協等によります備蓄、こんなものが大体挙げられております。

◎1番（脇田安保君） 最後に提案でありますけれども、確かに米の転作で困っている人を私もよく耳にするのでございます。農機具を買って

も返済に困る。これからまだまだ転作が進むんじゃないかというふうに思っている方が多々おるわけです。ですから、私の考えをちょっと述べさせていただきたいと思えますけれども、この転作において農家の人たちの声をよく聞いてあげてほしい、またそのような場所を設けてあげていただきたい、そのように思います。それと、農家の人たちの考え方にいろいろとギャップがあると思うんです。進めていくなら進めていくのでよいのですが、極端な進め方、あるいはいろいろな意見を取り入れて、政府の減反政策でありますけれども、やはり農家一戸一戸の希望、そういうものを取り入れながらこれからの農政の問題に対して対応をお願いしたいというように思います。

次に、市のガイドブックですけれども、自分の家庭で見たことがなかったものですから、お願いしたんですけれども、確かに私も見させていただいております。それで、よその市と比べてみますと、10年前につくられたガイドブックでありますので、まず見た感じ読みづらい、わら半紙みたいな紙質を使っておりますので読みづらい。内容としてはすばらしいんですけれども、その中の施設あるいは料金等が全然活用できないような本になっているわけです。まして、このようなものがあるという話を私も聞いたことがありませんでしたので、このように取り上げたわけです。

やはりいろんな声がありまして、例えば市民課の窓口で印鑑を忘れてきたとか、あるいは書類が足らなかったということで家に帰る人を何人か聞いたことがあるわけです。まして、当議会へ傍聴に来たいけれども手続の仕方がわからない。なかなか皆さん勇気がありませんので、聞くということがなかなかできないそうなんです。その点、早期の御検討をされて発刊できるように要望いたします。

以上です。

○議長（飯田義男君） 以上で、1番議員脇田安保君の質問を終わります。

次、8番議員鈴木勝美君。御登壇願います。

（8番議員鈴木勝美君登壇）

○8番（鈴木勝美君） 発言のお許しを賜りましてありがとうございます

す。通告してあります3点についてお伺いいたします。

一時期ほど激しくはないというものの、今なお人口の流出は静かに続き、気候、風土、自然に恵まれながら半島性による制約が災いして、明るい展望を抱き得ないのが本市の実態であります。

我が館山市が、昭和14年に県下において5番目の市制を施行し、来年は50周年を迎えようとしております。その間、南房総の中心都市として歩んできた歴史は市民の認めるところでございます。しかし、これからも南房総の中心としてのリーダーシップをとりつつけることは大変な努力が必要と思われます。それというのも、本市を取り囲む郡部市町村がいろいろと施策を練り、自力で頑張っておりますその足音がひしひしと押し寄せてきているからです。

市長は、就任以来今日まで、人間尊重を基本理念として、市政運営に全力を傾注してきておられ、この間、道路、学校、水道、産業、そして環境衛生施設など各種生活基盤の整備充実と、市民の自主性と連帯を基調としたコミュニティづくり、また健康福祉施設の充実を図るとともに、長期的展望に立って財政の健全性確保のため、行政運営の整理、合理化に力を注いできていることは市民の納得するところでございます。

また、市長は、施政方針の中で述べられましたように、本市がきたるべき東京湾時代に向けて活力ある文化福祉都市の実現を進めるためには、市民と行政が目標を共同し、連帯して、お互いの英知を集結し、協力し合うことが大切であると考え、それがひいてはみずから我がまち本市に対する愛着と同時に自覚と認識を一層深めることにつながると表明されております。私もこの点は全くそのとおりだと思います。

しかし、本市は厳しい現実の中で、目玉にしている観光事業、商業、農業、水産、そして輸送業等による誘客も伸び悩み、全くさみしい限りでございます。

そこで、まず1番目として、スポーツの振興政策、振興計画についてどのような考えを持っているのかお伺いいたします。

本市が、市民憲章の第一に体力づくりを掲げておりますように、市民の大半がスポーツに非常に高い関心を持っております。現在、館山市体育協会の傘下にある各部門の野球、剣道、柔道、サッカー、バレー、バ

スケート、弓道、陸上、卓球、体操等々の19クラブあるその会員総数は約2000余名に上ります。したがって、スポーツはそのほかに参加する人、見物する人の数を数え上げればまさに生活の中に入ってきていると言っても過言ではないと思います。

本市の体育施設は、市民運動場はじめ市民体育館、第一柔剣道場、テニスコート、プール等がございますが、施設の利用の一例を挙げてみますと、一中敷地内にある第一柔剣道場は空手の濤友会と市役所の剣道部愛好会の週1回の練習に使われているだけで、あとは一中の生徒の部活動に使われているだけでございます。そして、この施設は剣道大会、柔道大会にも一度も利用されておりません。全くもったいない思いがしますが、それというのも、観覧席もなく狭いということがあり、柔道場においてはスプリングが入っておらず、練習中に骨折が起きたということがあるそうです。このように施設の数は揃っていても、利用の面でいまいちということであります。

そこで、2つ目の質問として、スポーツ施設の建設について伺いたします。

本市に中央レベルの大会のできるような施設の建設をすることにより、現在、伸び悩んでいる観光事業等に結びつけていけば、本市の活性化につなげていくことができると思います。中央に匹敵できる大会が開かれるようになれば利用頻度は大幅にふえ、それを利用する人たちの宿泊する数もふえることは火を見るより明らかであります。その証拠には、市長みずから育て上げた若潮マラソンが第8回を迎えてますます盛大になってきております。

幸いに、昭和62年6月30日に閣議決定された第4次全国総合開発計画の中で、南房総地域半島振興法の承認、リゾート法の成立、そしてふるさと千葉5カ年計画、これらが相互に関連し、東京湾横断道路の建設、さらに東関東自動車道館山線の建設も始まろうとしております。行政的な振興政策が揃ったことで、館山市の開発は今を置いてないと思います。このチャンスを最大限に生かし、方向性を誤らないように東京湾横断道路、東関東自動車道館山線の完成に照準を合わせて、本市が先どり施策を展開していけば、本市も飛躍的な変貌を遂げるであらうでしょう。

そこで、施設づくりには観覧席のある武道館、陸上競技場、サッカー場、野球場、体育館等が必要であります。おかげさまで市長の努力により県営の藤原の運動公園に野球場が2面、テニスコートが7面、そして市の要望を取り入れていただきまして、続いて建設される体育館ができることは大変うれしいことですが、藤原の運動公園以外に市独自の体育施設建設計画があるようでしたら具体的に教えていただきたいと存じます。

次に、3つ目の武道館の建設について質問いたします。

本市が全国的に誇れるものは柔道であり、剣道であります。戦前から最近まで全国優勝した学校や個人においても活躍した人々が数多く館山にはおります。余談ですが、今月21日には日本武道館で行われます全国高校柔道選手権大会には安房高等学校が出場いたします。このように本市においては小学生から一般まで両武道の試合が年間約20数回行われ、参加人員総数は3000人を超えております。武道館の建設に積極的に取り組み、底辺拡大の中で、スポーツに一生懸命汗を流して頑張っている子供たちの将来の夢にもつながります。ぜひ実行に移すべく市民と市当局が一体となって努力し、全国どこにも負けないだけの規模でつくれば魅力は十分にあると思います。そこで、武道館建設について市当局のお考えをお伺いいたします。

2番目に、那古山周辺の整備についてお伺いいたします。

那古山及びその周辺整備についてであります。まず、その前に7年間を費やして城山公園整備も終わろうとしております。豊かな自然環境を基調にした館山城の復元をはじめ、梅園、花木園等が外来の観光客からも脚光を浴びて、館山市の観光振興に大きな役割を果たしていることはまことに御同慶の至りでございます。

そこで、館山公園も立派に整備されましたので、本市の一大観光資源である信仰と観光のメッカ那古観音を中心とする那古山開発とその周辺整備の観光開発をどう考えていますか、お伺いいたします。

最後になりますが、3番目に、東関東自動車道那古船形インターチェンジ取り付けについてお伺いいたします。

東関東自動車道館山線も四全総によって打ち出されたことは、本市に

とって待ちに待った朗報でうれしいことですが、この高規格道路は那古、船形地域の頭上を通過して南町方面 128 号線あたりに行ってしまうと、那古、船形地域は過疎化されてしまいます。東京方面からの館山への玄関口は船形であり、那古であります。

そのようなことを考え合わせるときに、高規格道路のインターチェンジはぜひ那古、船形に降りるように市当局が働きかけていただきたいと思います。と思いますが、御意見をお伺いいたします。

以上で、質問を終わります。初めての質問でわかりにくい点があったと思いますが、よろしく御答弁をお願いいたします。答弁によりまして再質問させていただきます。

○議長（飯田義男君） 市長の答弁は午後とし、午前の会議はこれにて休憩いたします。午後 1 時再開といたします。

午前 11 時 52 分 休憩

午後 1 時 01 分 再開

○議長（飯田義男君） 午後の出席議員数 25 名。休憩前に引き続き会議を開きます。

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 鈴木勝美議員の御質問にお答えをいたします。

大きな第 1 点、スポーツ振興政策についての御質問でございますが、これにつきましては、教育長より御答弁を申し上げます。

次に、第 2 点、那古山周辺の整備についてでございますが、昨年の暮れに地元から商工会議所を通しまして整備について御要望がございましたけれども、63 年度におきましては那古寺境内に水洗公衆トイレを計画しております。その他の要望につきましては、現在も陳情された方々と折衝中でありまして、今後も連絡調整を図って御要望にこたえていきたいと考えております。

次に、大きな第 3 点、東関東自動車道館山線に那古船形インターチェンジの設置の御質問でございますが、東関東自動車道館山線は昨年の臨時国会におきまして国土開発幹線自動車道、すなわち高速国道でございますが、その予定路線として認められたものでございますが、現時点ではルートをはじめ内容につきましても全然判明をいたしていないのが実

情でございます。

自動車道として市内を通過するような場合、インターチェンジの位置は当市の市民生活、文化の向上、産業の振興に大きな影響を及ぼすものでございますので、計画の段階で要望してまいりたいと考えております。

以上、答弁を終わります。

(教育長福原 修君登壇)

○教育長(福原 修君) お答えいたします。

スポーツ振興施策についての御質問でございますが、小さな第1点目、市のスポーツ振興計画でございますが、これにつきましては3点考えております。

その第1は、市民が日常生活の中で体育・スポーツ活動に親しみ、手軽に利用できる体育施設の整備をすることでございます。第2は、地域における潜在的指導者の発掘を図り、地域の実情に即したスポーツの普及、振興に努めること。第3は、各種スポーツ教室を充実させることであります。

現在、市民の生涯体育への要求が高まっている中で、市民一人一人が社会体育、スポーツを理解し、楽しめるよう努力してまいり所存でございます。

小さな第2点目の、体育施設の建設でございますが、既存の体育施設の整備充実はもとより、昭和63年度及び昭和64年度にかけまして館山運動公園に観覧席880席の体育館建設が予定されておりますので、その積極的な活用を図るとともに、今後体育施設等の充実につきまして努力してまいりたいと考えております。

小さな第3点目の、武道館の建設でございますが、市営第一柔剣道場もあり、他の体育施設の利用も考えられますので、新しい武道館の建設につきましては現在のところ考えておりません。

以上でございます。

○8番(鈴木勝美君) 私の質問しました順序によって質問していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

ただいま教育長から答弁がありました振興政策についてであります、大体わかりました。

一つ、学校体育以外の社会教育についてどのような計画を持っているかこれを具体的に教えていただきたいと思います。

それと、既存の体育施設の整備充実の中で、現在ある体育施設で観覧席を持った、観客動員の定数がわかりましたら教えていただきたいと思います。

それに合わせて、市の問題ですので、別途に公式の陸上競技場の建設についてのお考えがあるかどうかあわせて教えていただきたいと思います。

先にその3点お願いいたします。

◎教育長（福原 修君） 社会教育とおっしゃいましたけれども、多分質問の趣旨からいって社会体育のことじゃないかと思いますが、私たちといたしましては、現在あります体育協会、スポーツ少年団、あるいは婦人スポーツクラブ、そのような外郭団体等の活動を大いに側面から援助し、これを促進したいと考えております。

それから、現在の市の施設の中で観覧者を収容できる施設はあるかというような御質問でございますが、現在、市の50mプールがございますが、この50mプールにつきましてはたくさんの方が——あるいはすわり方いかんによりましては収容する人数が減ったりふえたりしますので、これこれという数はございませんけれども、たくさんの方が収容できるかと思っております。それだけの施設でございます。

それから、陸上競技場の施設でございますが、陸上競技場も、せひ400mのトラックはつくりたい、つくってほしい、こういうような考え方を持っておりますけれども、これも相当規模の財源を必要といたしますので、あらゆる諸条件を考慮しながら検討を加えたい、こう考えております。

以上でございます。

◎8番（鈴木勝美君） 次に、現在ある施設の整備充実を図る中で、今、現在あります市民運動場の野球場についてであります。試合は一応2チームでやるものですから、選手は全部中に入っちゃってやるからどうってことないんですけれども、見にきた人たちの観覧席が一つも設置されていないので、場所的にバックネットの裏が大分広くありますので、

そこを中心として観覧席を設けていただきたいんですが、その点についてお尋ねいたします。

◎教育長（福原 修君） ごもったもな御意見であるかと思しますので、十分検討いたしたいと思います。

◎8番（鈴木勝美君） その野球場は、今現在、安房郡市地方の中心になっている野球場ですので、館山のイメージアップにもものすごくつながる大事なところですから、ぜひ前向きに考慮して、できるだけ早く要望にこたえていただきたいと思います。

それから、先ほどお答えの中で、剣道場については、今のところ考えがないようですけれども、第一柔剣道場を既存の形の中で整備して使っていくたらということですので、最初の話の中で話しましたとおり、ちょっと試合には使えない状態ですので、この剣道場についてはさきに質問しましたけれども、全国に誇れる館山のスポーツじゃないかと思えます。この点については私は日本一ではないかと思えますけれども、この市民の誇りを形にあらわすために、来年迎える市制50周年記念として全国規模で建設できないかと思っていましたが、先ほど教育長の御答弁の中でちょっと望みがないようですけれども、できるだけ前向きに考えていただいて、一気には無理かもしれませんが、根幹事業あたりに入れていっていただければと思います。

スポーツのことについては、一応このくらいにしておきますけれども、これからもスポーツ中心の館山にしていきたいというのが私の考えですので、前向きに考えていただきまして、一応この質問は打ち切ります。

それから、続きまして、那古山の件でございますが、市長の御答弁でいろいろ骨を折っていただいていることはわかります。それと、来年度の予算の中で、地元の御要望を入れていただきまして、早々とトイレの取り付けを行っていただきましたことは、まことにうれしいことです。これからも那古山については、宗教法人とか、いろいろな関係があってもなかなか思うようにはいかないと思いますが、地元の要望が実現できるようにしていただきまして、この質問も打ち切りたいと思います。

それから、那古船形のインターチェンジのことですが、まだ具体的な話になっていないということですので、きょうの千葉日報の報道に

よりもすと、完成まで1年ぐらい短縮できるんじゃないかという報道もありました。そういう意味で、東京湾横断道路等の建設に合わせるぐらいの情報がこれからもどんどん出てくることでしょうから、これらに合わせるように要望して、私の質問を打ち切ります。市当局も頑張っていたきたいと思います。

以上で質問を終わります。

◎議長（飯田義男君） 以上で8番議員鈴木勝美君の質問を終わります。次、18番議員日下君敏君。御登壇願います。

（18番議員日下君敏君登壇）

◎18番（日下君敏君） 私は、今次定例会におきまして提案されております議案25件の審議に先立ちまして、すでに御通告してございます3事項につきまして、半澤市長の御所見を承ろうとするものであります。

御案内のとおり、本議会は、新年度を迎えるにあたり、その予算案を審議する予算議会であります。議会開会の冒頭、今年も慣例どおり市長の施政方針、新年度の市政運営に関する所信が表明されました。

今般の私は、その施政方針を受けて、少しく御質問をいたしてみたいと存ずるのであります。

質問に入ります前に、半澤市長の施政方針について一言感想を述べさせていただきます。今回の施政方針演説は、率直に申し上げてここ数年のそれに比較するとき、極めて積極的な姿勢を堅持したものであり、一言で申し上げれば歓迎すべき方策を明示した前向きなものであると評価いたします。

施政方針によりますと、館山市は今や長年の念願であった袋小路性からの脱却をすべきときにきており、地域の開発ポテンシャルは一気に高まって大きな時代の転換期を迎えた現状を分析し、その上に立って総合的に施策を進めるために、予算については投資的経費への積極的財政配分を考慮して編成したと明言いたしております。

その新年度の予算規模を見てみますと、歳入歳出とも102億2846万円、前年度対比6.8%の増加となっております。これはここ4年ほどの予算が前年対比でマイナス成長かせいぜい横ばい状態であるときと比較して見た場合、際立って高い伸びを示したものであり、58年度

予算以来再び当初予算が100億円の大台を超えたものとなっているわけであります。この一点を見ましても、市長が転換期に向かった館山市政のかじを積極的にとろうとする意欲を示したものとして素直に評価いたすところであります。

さて、以上の状況を前提といたしまして、以下具体的に質問をいたしたいと存じます。

質問の第1点目は、施政方針に盛られている重点施策についてであります。第1項目目が館山駅周辺整備事業について、第2項目目が道路交通網の整備について、第3項目目が河川の浄化対策について、第4項目目が上下水道整備事業について、第5項目目が都市公園整備についてであります。以上、5項目にわたって順次御質問いたします。

これら5項目につきましては、もちろん施政方針の中で一応の御説明はいただいておりますが、ここではいさ少しく具体的に、かつ、いさ少し詳しく御説明を賜りたいと存ずるものであります。

第1項目目の、館山駅周辺整備事業につきましては、西口整備の現状とそのこれからの予定等について承りたいと思います。

また、東地区に関しましては、さきに設置されました館山駅周辺まちづくり推進協議会のその後の動向などに触れて御説明をいただきたいところであります。

次に、第2項目目の、道路網の整備につきましては、いわゆる館山バイパスの進捗状況とこれに関連いたします市の都市計画街路であります八幡高井線の問題、さらには主要幹線道路網として位置づけられました東関東自動車道館山線の見通しなどについてお尋ねいたします。

このところ、館山市を取り巻く道路網の問題は急であります。いうところの袋小路からの脱却のためにはやはり道路の整備が何といたっても生命線になろうと存じます。市長のこの問題に対する明確かつ簡潔な御答弁をお願いいたすところであります。

第3項目目は、河川の浄化対策についてであります。河川の浄化問題は次の項目であります下水道整備問題と密接に関係するものでありますけれども、館山湾とそこに流入する主要河川の汚染は、近年ことに悪化の状態にあると申しても過言ではありません。市御当局もこれに対して

決して手をこまねいていたわけではなく、次々と措置の手を打ってきていることは承知いたしております。家庭用雑排水の汚染を少しでも少なくするためのろ紙、三角コーナーの設置の推進等、確かに見るべき施策はなされてきてはおりますけれども、全体的にはいまだしの感がぬぐわれないのが実情であります。浄化対策として市長はいかなる施策をおとりになろうとしているのか所見をお聞かせください。

第4項目目は、上下水道の整備に関してであります。さきにも述べましたとおり、第3項目の河川の浄化との関連においてお尋ねいたしますが、市は公共下水道の整備に関しどのような姿勢で対応してまいる御所存なのか承りたいと存じます。海や川の浄化は最終的には公共下水道の整備を待たなくては解決しないといわれておりますが、はたして公共下水道を本当に整備するおつもりがあるのかどうか。新年度はこの問題にどのように取り組んでいくのか具体的に御説明ください。

館山湾とその河川の汚染は、さきにも申しましたとおり、状況は悪くなりこそすれ解消されたという話は聞きません。市もこのところかなりのウェートをかけてその対策に苦心していることはもちろん承知の上ではございますが、何といたっても解決への門はまだ開かれたとは申せません。公共下水道は膨大な資金を飲み込む怪物的事業であることは論をまちませんが、一方河川の汚染という現実を抱えているとき、市長はいかなる存念をもってこの問題を解決なさるおつもりなのかお聞かせください。

幸いと申しますか、時宜を得ていると申しますか、我々議会にもこのほど公共下水道に関する特別委員会が設置されまして、この問題と正面から取り組むことになりました。我々も市の執行部とともに、またこれをサポートしながら車の両輪のごとく一体となって検討をいたす所存でございますが、市長の御所見を伺いたいところであります。

次に、上水道について伺います。新年度予算には新しく神余ダムが建設されるための予算が計上されております。このダムによって市に残る未給水地区の解消がなされるのかどうか。また、ダムに対しての年次計画等はいかなるものなのかお尋ねいたします。

第5項目目は、都市公園整備についてであります。半澤市政が都市公

園の整備に力を入れてきておりますことは、城山公園の充実ぶりを見ても明らかでありまして、その成果は十分理解しておるつもりでございます。市民に緑とやすらぎを与える場としての公園を整備する方針には異論のないところでありまして、これからも一層の拡充を望む一人でございますが、城山公園をはじめとする都市公園について新年度はどのような事業をなさろうとするのか、簡単に結構でございますので御説明願いたいと存じます。

以上で、第1点を終え、次に移ります。

質問の第2点目は、国民健康保険税についてであります。

この問題に関しましては、私は過去何度かにわたり御質問をいたしてきておる経緯がございますが、今回も新年度を迎えて新しく予算が組まれましたので、再びお尋ねしておきたいと存じ御質問をいたすものであります。

我が国は、経済情勢の向上に伴い、高齢化社会に向けてかなりのスピードで走りつつあり、これと比例して医療費の伸びも予測を上回る数値となっておりますことは、御案内のとおりであります。政府は医療費の増加を国民所得の伸びの範囲内に収めたい旨の趣旨であります。現実の医療費は毎年のごとく国民所得の伸びをオーバーしております。医療費が増加すればそれを負担する保険税も増加せざるを得ないのは自明の理でありまして、我々被保険者の負担が増加するのもまたやむを得ないことには相違ないのであります。

ただ、問題は、毎度申しておりますように、天井なしで毎年、毎年保険税が値上がりするようでは、我々の負担はパンクするよりないということであります。限りある財布で限らない保険税を出費すれば必ず破綻がくるたとえであります。現在の館山市の保険税はすでに負担の限界にきているといっても過言ではない、さように存じその対策の一つとして一般会計からの資金繰り出しもやむを得ないのではないかと主張してきたものであります。

国保は、御案内のように自営業者をはじめとして市民約2万5700名が加入している保険であります。加入者は老人、子供などいわゆる社会的弱者が多く含まれているのが特色であります。これら社会的弱者

を保護するためには現実を直視し、特別会計独立の原則を離れても一般会計からの資金の導入はやむを得ないというのが私のかねてからの主張でありました。今般の予算では、初めて国保税に対し一般からの繰り出しが行われております。その意味では国保会計も63年度は新しい局面を迎えたことになります。

ところで、施政方針を見てみますと、一般会計からの繰出金は5200万円と明示されておりますが、これによって来年度の保険税がどうなるかについては一切敷えんされておられません。幸いにして、今年度は結果的には据え置かれた保険税であります。さて来年度はどうなるのか、値上げされるのか、されないのか、それとも再び据え置きになるのか、明確な御答弁を求めるものであります。

最後は、いわゆるリゾート法の問題であります。

市の方針をじっくり読みますと、我が館山市が活性化するためには、リゾート法による企業誘致が最も大きな柱になるという意図が十分読みとれてまいります。今後、この問題は一日経てば一日だけ現実味を帯びる重要な課題になっていくと思われませんが、リゾート法のかなめである地域指定の件は現在いかなる状況下にあるのか、果たして館山市を含めた安房地域は重点整備地区として地域指定が受けられ得るのか否か、現在答えられ得る範囲内で結構でありますので、この辺の事情を御説明願いたいと存じます。

以上で質問を終わりますが、半澤市長には率直、簡明な御答弁を期待し、御答弁によりまして再質問させていただきます。

(市長半澤良一君登壇)

◎市長(半澤良一君) 日下議員の御質問にお答えをいたします。

大きな第1点、施政方針の重点施策についての御質問でございます。

まず、第1点、館山駅周辺整備事業についての御質問でございますけれども、まず、館山駅西口地区土地区画整理事業についてでございますが、現況を申し上げますと、昨年来、土地区画整理事業施行区域の都市計画決定をすべく手続を進めてきたところでございますが、昨年9月基本計画についての建設大臣の了承を得まして、12月11日から同月24日までにわたり都市計画案の縦覧、さらに本年1月8日館山市都市計

画審議会の議を経まして、県知事へ承認申請をいたしました。県では、去る2月23日千葉県都市計画地方審議会が開催され、原案どおり承認されました。今後、県知事の承認により、3月中にも市として都市計画決定を行いたいと存じます。

また、今後のスケジュールでございますが、63年度に事業計画の作成を行い、早期に事業認可が得られるよう努めるとともに、引き続き用地取得を進め、64年度には換地設計を行いたいと考えております。

次に、館山駅東口地区市街地再開発事業について現況はどうかという御質問でございますが、昭和61年12月定例会での議員さんからの御提案による館山駅周辺の開発事業を推進するための特別協議会の設置、昭和62年5月提出されました陳情書による館山駅東口開発特別委員会の設置を踏まえまして、館山駅周辺の近代的なまちづくりの整備を推進するために、館山駅周辺まちづくり整備推進協議会を設立すべく地元権利者と協議を重ねてまいりましたが、民意的な組織としてほしいとの要望がございましたので、現在関係機関に運営と事務局をお願いいたしているところでございます。

小さな第2点、道路交通網の整備についてでございますが、建設を進めております国道127号館山バイパスの用地取得率も館山市分94%、富浦町分98%となり、工事の進捗率もおおむね65%に達していると聞いております。

現在、一部供用を開始しております正木、那古地先から富浦町の深名地先の犬掛館山線までの間、約2kmにつきましても、この3月30日に部分供用を開始する運びとなり、64年度中には全線供用開始ができるよう促進を図ってまいります。

さらに、東関東自動車道館山線及び主要地方道館山白浜線バイパスの早期建設へ向けて、国、県等関係機関へ積極的な働きかけを行い、広域幹線道路網の整備確立を目指してまいります。

また、これらの広域幹線道路網の整備にあわせて、都市内道路交通網の整備といたしまして、都市計画道路八幡高井線を市街地へのアクセス道路及び海岸へ接続する観光道路として、文化性に配慮し、沿道の修景整備を考慮しながら、館山バイパスの完成に合わせて建設を進めてまい

ります。

次に、小さな第3点、河川の浄化対策でございますが、昭和63年度予定しております事業といたしましては、まず家庭雑排水対策といたしまして、市民への浄化に対する意識の高揚、啓発を図るため、各戸への啓発用チラシの配布、モデル地区1000世帯への三角コーナー、ろ紙袋試供品の配布を実施いたします。

次に、生活排水処理施設といたしまして、三軒町排水路に生活排水共同処理施設、塩焚排水路に直接浄化施設の建設に着手いたします。また、浄化対策の有効な手段であります小型合併処理浄化槽の設置に対する補助制度を新たに設け、この普及に努めてまいります。

次に、上下水道整備事業についてでございますが、上水道につきましては、神余地先のダム計画があるわけでございますが、これについてはすでに基本調査を実施してございます。63年度には前回の調査に引き続いて測量、地質調査及びダム概略設計等を実施するものでございます。なお、64年度にはダムの許可申請及び水道施設の事業変更認可申請等を行い、65年度から67年度の3カ年で拡張事業を完成させる予定でございます。

なお、未給水地域館野、九重でございますが、この件についてはいろいろ問題がございますけれども、現在、三芳水道の給水区域内ということで計画を進めているところでございます。

次に、第4点、下水道整備の事業についてでございますが、63年度から公共下水道建設へ向けて諸調査に着手をいたします。まず、市内全域につきまして下水の処理を公共下水道等の集合処理方式で行うのが適当な区域の設定と、その整備手法について調査を実施し、全市的に下水道整備の大まかな計画を策定するとともに、公共下水道建設のための基礎調査として東京湾流域別下水道整備総合計画区域内の1040区につきまして、地形、人口、産業の動向、雨水の排水系、環境上の問題等について調査を実施してまいります。

また、これらの調査との整合を図りつつ、雨水排水現況調査を行い、都市下水路や地区排水路について計画的、効率的な整備を進めてまいります。

次に、小さな第5点、都市公園整備についてでございますが、城山公園につきましては、山頂の園路、北側道路の舗装及び排水路等の整備のほか、受電の一元化を図るため受変電施設の建設、日本庭園、茶室の基本設計及び実施設計を計画しております。

また、中央公園及び各児童公園につきましては、施設の老朽化に伴う補修工事及び排水路等の整備を予定しております。

県立館山運動公園につきましては、県事業として2年の継続事業で床面積約6000㎡、アリーナ——主体育室でございますが——面積約2160㎡の体育館の建設に着手するほか、運動施設の補修、遊具の設置、ゲートボール場等の遊戯広場の造成が計画されております。

次に、大きな第2点、国民健康保険税についてでございますが、昭和63年度の国保特別会計当初予算の編成にあたりましては、昭和62年度剰余金を1億2500万円と見込み、また国保財政調整基金から3000万円、一般会計から2000万円を繰り入れ、これを国保税の軽減に充てました。この結果、63年度の一人当たり国保税調定額は6万2732円になり、対前年度決算見込み比は108.41%の伸びとなりますが、今後の医療費の動向、税収入、国庫支出金等不確定要素がございますので、6月本算定では多少の変動もあるものと考えております。

次に、大きな第3点、観光問題でございますが、特にリゾート法による重点整備地域指定の見込みはどうかという御質問でございますけれども、現在、県におきましてはリゾート法に基づく整備に関する基本方針を受けまして、基本構想の前段階としての基礎調査書の取りまとめをしており、今年度内を目途に国に提出する予定であると同っております。

その基礎調査でございますが、君津市から銚子市に至るまでの市町村の海岸を中心とする約17万8000㎡の特定地域の中に、館山地区をはじめとする重点整備地区11地区について、それぞれ整備をする方向を示した内容であると聞いております。

今後は、基礎調査について、国土庁をはじめ6省庁の審査を受け、認められた地域のみが基本構想を作成し、承認申請することになります。

当市におきましては、各関係団体との意見調整に努め、民間企業の誘導、開発の調整を図りながら、海洋性リゾートタウン計画の熟度を高め、

県内においても誇れるリゾート地整備構想としてリゾート法の地域指定を受けるべく全力を傾注してまいりたいと考えております。

以上、答弁を終わります。

◎18番(日下君敏君) ただいまの御答弁で一応の了解をするところではありますが、1、2、いまいちお聞きいたしたいということもございますので、再質問をさせていただきたいと思います。

第1点目の、駅の周辺整備でございますが、西口につきましては大分計画に沿って進んでおるようでございますが、これまでお聞きしてきたところでは、西口の一番のネックが、六の7町内会が大分ネックであったというふうに、この議場でもやりとりがなされたというふうに記憶しておるんですけれども、今の御答弁ではほぼ都市計画審議会も承認されたということで、六の7町内問題もクリアされたというふうに理解いたしますが、では一体どのような格好で解決したのかというところをお聞きいたしたいと思います。

◎経済部長(安西良一君) まず、都市計画決定のお話でございますが、2月23日に地方都市計画審議会が開かれまして、承認されまして、3月の3日に承認がされて通知が参っております。そういうことで現在告示の運びになっておるという段階でございます。そうしますと、一応決定する。

それから、六の7町内の皆さま方の意向ということでございますが、六の7町内につきましては、地権者が22名、それから借地権者が27名おるわけでございますが、これらの方々の大半47名の方々は同意が得られてございます。全く反対だという方は現状ではございません。皆さんがやるならばというようなことで御賛同を得ているというのが実態でございます。

以上でございます。

◎18番(日下君敏君) わかりました。

それで、縦覧にかけたわけですね。縦覧にかけて何か意見が出ましたか。

◎経済部長(安西良一君) 市の都市計画審議会にかける前に、12月の段階で皆さん方にお見せをしたわけでございますけれども、縦覧にか

けたわけでございますが、それにつきましては1件の意見書も出てまいりませんでした。

以上でございます。

○18番(日下君敏君) ということは、ほぼこの計画に沿っていくんだということになるわけですね。そうしますと、これから仮換地とか、難しいところにいくんでしょうが、一応予定どおりというか、多少の遅れはあっても計画どおり進んでおるということで、今後ともひとつ頑張ってやっていただきたいと思いますと思うんですが……。

減歩率の点につきましては、先ほど田沢議員がお聞きしましたものですから、一応このまま打ち切ろうと思うんですが、ただちょっと気がかりなのは、62年度の予算で5000万近くの執行残が出ている。ということは、やはりそれだけのものを用意してあるんだけど、それができなかった。簡単で結構ですが、なぜもっとほしいんだけどそれがだめになったか、執行残のお答えをいただきたいと思います。

○経済部長(安西良一君) その前にちょっと日にちの訂正をさせていただきたいと存じますが、知事からの承認の通知でございますが、先ほど3月3日と申し上げましたが、3月の5日でございますので、恐れ入りますが、御訂正願いたいと思います。

それから、執行残の出た理由ということでございますが、当初用地買収をできるということで一応予定させていただいたものが、実は決算の結果、今売るよりももう少し時期を見てから売りたいというようなお話がございまして、それならばということで時期をずらしたという、先の方の御都合でそうさせていただいたということでございます。

以上です。

○18番(日下君敏君) それと、もう一点。これでいよいよ計画が決定されるわけですが、この間、議会で御説明をいただきました訴訟があるわけですね。これが今度高裁の方に控訴されたということでございますが、この問題は何度も念を押すようですが、事業を遂行していく上においては当面支障はないというふうに理解してよろしいでしょうか。

○経済部長(安西良一君) そのように御理解していただいてよろしいと思います。以上です。

◎ 18 番（日下君敏君） 東口の問題ですが、既存の商店街がござい
ますので、西口ほど計画どおり進まないということはよくわかるんでござ
いますが、それにしても少し動きが緩慢なのではないかと思うわけでござ
います。62年度の予算の執行残も大分あるようでございますが、す
ぐにということはできませんが、東口については鋭意配慮してやってい
ただきたいと思うわけでございます。

次に、道路網の整備につきましては、ただいまの御答弁でほぼ了解い
たします。館山バイパスもまたこの3月に一部供用開始になるというこ
とで、大分進捗状況もよろしいようでございます。

ただ一点、先ほどの御答弁にもございましたが、東関東自動車道は大
変大きな問題として、そのバイパスが館山に突き当たります、128号
にぶつかるその先、つまり主要地方道館山白浜線の解決をいたさない
とどうしてもあすこの——バイパスが供用されてから鴨川へ向かうのはよ
ろしかろうけれども、白浜あるいは館山市内に入ってくるのはちょっと
あすこで込むのではなかろうかということも考えられますので、白浜館
山線の早期実現方の御努力を要望して、この道路網については質問を打
ち切ります。

3項目目の、河川の浄化対策でございますが、これは大変に現実に汚
れておりますので、いろいろ手を打っているけれどももう一つ決め手が
ない。最終的には公共下水道の整備ということになるんでしょうけれど
も、そこにいきつくまでにはいろいろな問題がある。半澤市長にまずお
聞きしますが、市としてはやはり公共下水道の整備はなさるということ
なのか、公共下水道について市長がどういうふうに考えておるのかお聞
きいたしたいと思います。

◎市長（半澤良一君） ぜひやらなければいけないと考えております。

◎ 18 番（日下君敏君） 来年度から公共下水道についての基礎調査、
周辺調査が行われるということは理解いたします。現在、ろ紙、三角コ
ーナーの設置とか礫間浄化というんですか、河川の浄化、あるいはちょ
っとお金がかかりますが、小型合併槽の家庭内のこれらのことを行って
おりますが、これはそれなりに効果が大変あるものだろうと思うんです
が、私の聞いた範囲で言いますと、ろ紙、三角コーナーはほぼ30%ほ

どの浄化作用ができます、小型合併槽に至ってはもっと大変なもので20ppmぐらいまでにきれいにできるんだということですが、そのとおりですか、そうでないんですか、それだけちょっとお聞きいたします。

○民生部長（渡辺 弘君） ただいまの三角コーナー、あるいはろ紙、また礫間浄化施設、さらには小型合併浄化槽の除去率等については、御質問のとおりでございます。

○18番（日下君敏君） そうしますと、小型合併槽については新しく市長の御答弁で補助制度でやるんだということですね。水洗の浄化をしたいという方は、その費用があれば、小型合併浄化槽を設置できて、その差額を補助しますという制度ですね。そうすると、これによって相当の効果が上げられるということで、今後ともこの問題を大々的にしていくと、公共下水道は必要じゃないんじゃないかというような意見もあるんじゃないかと思います。

つまり、公共下水道と今、考えております戸別的な処理、来年度から2年続きで三軒町に共同処理施設をつくる、そういうことでまた3年後につくるということになると、あるいは公共下水道というものが必要じゃないんじゃないかというような意見もあろうかと思いますが、その辺の整合性についてはいかがいたす所存でございますか。

○民生部長（渡辺 弘君） 先ほど、日下議員の御質問の中にございましたように、河川、海域の浄化対策といたしましては、汚染の状況から緊急の課題であるわけでございます。特に、汚染の原因の70%を占めるといわれております家庭雑排水対策につきましては、従来住民の啓蒙、啓発を図るとともに、施設整備に力を入れてきたところでございます。

63年度の予算中に公共下水道を建設するための基本調査等の委託料が計上され、公共下水道の整備構想、さらにはエリアマップ製作等が盛られておりまして、着手の途につくわけでございますが、ご案内のように公共下水道の場合、一部の供用開始を行おうとしても一番短い——これは先進地の例、もしくは厚生省あたりの見解でございますけれども、13年を上回る年月を必要とする、さらに全部供用開始のめどとしては15年乃至20年という非常に長い期間を必要といたすわけでございます。そのような中で、館山の河川、さらには公共水域の汚染の状況から

見れば、このまま放置して公共下水道の完成まで待つのがいいのかどうか非常に疑義があるところでございます。

それと、家庭用小型合併浄化槽の設置につきましては、今回の当初予算で30基の計上をお願いしてあるわけでございますが、小型合併浄化槽の設置につきましても設置の要件がございます。と申しますのは、単独浄化槽が現在設置されておりまして、それよりも多くの用地が必要となります。したがって、今後、単独浄化槽の設置される家庭がすべて小型合併浄化槽へ移行するという確信と申しますか、可能性もございませんので、最も有効な手段であります公共下水道の設置の段階まで小型合併浄化槽なり、また生活排水処理施設等でもって処置してまいりたい、このように考えています。

◎18番(日下君敏君) 例えば、来年、合併浄化槽の補助でやりますと、それが、最終的な公共下水道が実施されたときに、何とか新しく投資しないで間に合う時間になりますか。——間に合うようお願いしたい。

さっきの御答弁で、市民の意識の高揚ということで大変必要だろうと思うんですが、現実の海の汚れについては、よく言うように家庭雑排水の原因が70%ということですから、家庭雑排水をおさえるということが主要な施策になるだろうと思うんですが、一方で現在の浄化槽につきまして、いわゆる無届けで設置してあるところは非常に御当局としてつかまえにくい、例えば正式な許可でやってあるところは届け出その他がしてあるから、あとのメンテナンス——保守、管理が一応業者によってなされるけれども、無届けのところが大分ある、そこについてはどうも捕捉しがたいんだというような話を聞きますが、その辺の無届け、そういうものについて今までに御調査しておられるのかどうかお聞きいたしたいと思います。

◎民生部長(渡辺 弘君) 確かに、御指摘のように館山市内に設置されておる浄化槽がすべて届けられているのかどうかということにつきまして、100%届けられているという答弁はできないわけでございます。

浄化槽の立ち入り検査は県が持っておりますが、その浄化槽の不備のために館山市内の河川、海域が汚染される元凶となっておるわけでござ

いますので、市としましては県に対して立ち入り検査権の事務委任と申しますか、申し入れた経緯がございますけれども、法律に基づきまして任されることができなかったわけでございます。

それで、現在では保健所ともども市内の浄化槽を一件一件あたりまして、無届けであれば届け出の指導、さらには浄化槽の不備な点があれば点検衛生、さらには定期検査等の指導を行うようにしております、現在まで那古、船形、富崎を終了したところでございます。

以上でございます。

○18番（日下君敏君） やはり、市の御答弁にありますように、意識の高揚という意味から、そういう管理面も市の方もかっちりやりますよということが必要だろうと思うんです。ですから、ひとつその辺の活動をよろしく願いたいと思います。

先ほど、私の質問の中にありましたように、議会の中にも公共下水道に関する特別委員会も設置されましたし、半澤市長におかれても下水道はやはりやるべきものだということでございますので、これからも今後の問題として我々も検討させていただきたいと思います。

ダムの件ですが、ダムにつきましてはすでに基礎調査と申しますか、そういう調査が終わっているから、大体3カ年計画で給水ができますよということですが、先ほどの答弁にありましたけれども、未給水地区については神余ダムができて対象としない、ということですか。

○水道課長補佐（山中通夫君） お答え申し上げます。

館野、九重地区水道計画は、基本的には三芳水道の給水区域に含める方向で作業を進めているものでございます。

○18番（日下君敏君） そうすると、この神余のダムというものは、未給水地区については三芳水道の福沢ダムの方でやる、神余ダムをつくるというのは慢性的な水不足である館山市の他の地域を助けるために行う。もっと突き詰めて言いますと、今、大変ここで議論になっております、開発計画が大分リゾート法に基づいて出ているんだ——リゾート法に基づいているかどうかは別にしまして——そうしますと、そういう諸施設も当然水を必要とするから、そういった意味合いも含めてできたダムかなと思うんですが、そんなところですか。

◎水道課長補佐（山中通夫君） 水道の需要は年々増加しておりまして、その理由と申しますのは、核家族化とか、文化生活の普及——これは水洗トイレなどでございますが——そのほかに観光施設等の増加もあるわけでございます。その中に、当然御指摘のそのような施設も含まれてくるものと考えております。

◎18番（日下君敏君） そうすると、未給水地区の館野、九重地区については、三芳水道で行う福沢ダムでいくんだという原則としまして、私、簡易水道でそこを賄うというようなお話をちょっと聞いたんですが、答弁、簡単で結構ですから——簡水でやる場合にも、例えばの話ですが、水源はその福沢ダムの方からもってきてやるんだというふうに理解していいですか。

◎水道課長補佐（山中通夫君） そのとおりでございます。三芳水道から分水を受けて——これは三芳の水を使ってということですが、そういうことの意味でございます。

◎18番（日下君敏君） わかりました。

次に、国民健康保険に移りたいんですが、国民健康保険はゆううつなんですが、これは何度も言いますように、たまたまきのうNHKのテレビ見ていましたら、NHK特集でやっておりまして、1200億の赤字があるがこれは一体誰が負担するんだ——あれを見ていて一体誰が負担するのか答えがちょっとわからなかったんですが、最後は、あそこに出てきた課長さんが「国にやってもらわなくちゃいかんじゃないか」という話だから、国が負担するのか、それとも被保険者である我々が負担するのか、NHKも難しい問題とみえて結論は出していませんでしたが、いずれにしても大変な問題で、市長さんを責めるのもいまひとつじっくりしないんですが、やはり運営主体の長としてお聞きいたしたいと思うわけです。

62年度は幸いにして、6月の本決算で何とか剰余金が予想以上に出ましたものですから、たしか据え置かれたと記憶しておりますが、今回、一応8.4%の——値上げと言うと、そちらサイドとすれば「そうじゃない、調定額の拡大か何かだ」ということではしょうが、8.4%の値上げを予測している。もちろん医療費の伸びがそこまであるからそうなん

だと言われればそれっきりなんですけれども、確かにいろいろと聞いてみますと、1億2500万の剰余金を計上し、さらに先ほど聞きましたように一般会計から2000万出しております。現在のところ決算見込みはどうなんですか。もう少し出そうですか。時間がございませんから簡単に結構です。

○民生部長（渡辺 弘君） お答えいたします。

1億2500万の決算見込みが出るものと積算いたしましたのは、12月末時点でございます。その時点で医療給付費がまだ5カ月残っているということ、それから、その後の政府でもって決定いたしました、現在国会で審議されております国保改革案に伴う財源等も今後出てくる見込みでございますし、医療給付費等につきましてもまだ未確定でございますので、それらの確定を待たないとはっきりした決算見込みと申しますか、出納閉鎖の5月末を過ぎてみないといまだ流動的な要素が非常にあるということでございます。

以上です。

○18番（日下君敏君） ひとつ、8.4%というと大変高い規模ですので、それこそテレビでも言ってましたが、もう負担としては限界に近いものなんです。ですから、何とかひとつその辺の値上げを——わかっています、何とかしろと言ったってできないということもあるだろうけれども、お願いしたい。

それと、もう一点。純粋に一般会計からの繰入金で2000万ということになっておりますが、この2000万という数字がどういうところから出たのかということをお聞きしたい。答えは簡単に結構です。例えば、豊岡市へ視察に行きまして、豊岡市も出しているんですが、豊岡市の場合は上限5000万と決めまして一定のルールをつくって、公共嘱託があると50%とか、そういう一定のルールをつくって上限5000万というようなことで出しておるようですが、館山市の場合2000万ということの一つの根拠を簡単に結構ですからお願いします。

○民生部長（渡辺 弘君） 2000万円の繰り入れの根拠と申しますか、基準といたしましては、特定の納税義務者が受けた措置によりまして他の納税者が負担しているもののうち、市単独の措置によるものにつ

いて63年度繰り入れの基準といたしたわけでございます。

具体的には、昭和62年の12月末現在で減免をいたしました額151万2000円と61年度不納欠損額1815万2000円、この合計が1966万4000円になりますが、それを2000万に繰り上げて一般会計からの繰出額といたしたわけでございます。

以上です。

◎18番(日下君敏君) 一般会計からどの程度繰り出したらいいかどうかというのは、大変難しい問題だと思いますが、根本的には国保税そのものが上限にきているという観点に立って御措置願えればありがたいと思います。

リゾート法につきましては、現在、地域開発課の方々もはりきってやっているわけですので、地域指定に向けて一層の御努力を要望いたしまして、質問を終わります。

◎議長(飯田義男君) 以上で、18番議員日下君敏君の質問を終わります。

次、13番議員山中金治郎君。御登壇願います。

(13番議員山中金治郎君登壇)

◎13番(山中金治郎君) 発言のお許しを賜りましたので、さきに通告をいたしてございます2点につきまして質問申し上げますが、市長の御所見を承りたいと存じます。

まず、第1点、財政構造の体質改善と申しますが、変質には税源の培養のため、積極的な産業投資がなければならないということでございます。この点につきましては、私はしばしば申し上げておりますので、今回は違った面から取り上げてみたいと存じます。

さて、新年度予算でございますが、一般会計は対前年度106.75%に対し、産業関連予算は3款合わせて100.83%と大きく下回っており、予算説明資料中の節別集計によりますと、1節から4節までの人件費は単純平均で104.15%となります。したがって実質的な産業経費の事業費は大幅な減額となることとなります。にもかかわらず、市長は、前文に、「地域の活性化とは、生活文化の創造ではないかと考えます。即ち、産業の振興、雇用の確保に加え」云々と言っております

が、例年計上されているもの以外、雇用を確保するための費用が計上されておりますか。しかし、今回はそれはそれとして、私は先ほど申し上げたように別の角度から考えてみたいと存じます。

市長は、予算内示用のプリントで財政構造の体質を改善しなければならない旨のことを言っております。財政構造の改善は私も賛意を表しますが、次に申します数字は千葉経済センターで発行した図書の中での数字でございますが、60年の県内の各市の商品販売額の表がありますが、これによりますと館山市は1189億500万で、57年の調査時点と比較するとわずか3.1%の伸長率で28市中最下位。また、工業製品の出荷額は61年当市は282億円で28市中下位から5番目の低い水準であります。また、観光客も白浜町を除いてほぼ上昇傾向ですが、当市は115万人前後で54年から60年まで横ばいの状態です。宿泊客につきましては、安房、夷隅地区で下降減少が見られますが、他の地区は極めて強い上昇率が見られます。

このような館山市の市税収入は年々歳入における比率を増大させておりますが、すなわち48年度決算において市税の占める割合が35%、59年度は40.9%、60年度で44.5%、61年度が50.4%になり、63年度予算では51.7%を計上いたしております。

さらに、市税中、各費目ごとの割合を申し上げます。48年から61年までは決算額で、63年度は予算額で申し上げますと、市税中占める市民税の割合を個人、法人にさらに分けてみますと、48年度は市民税総額で37.3%、個人分が29.5%、法人分が7.8%、59年度が市民税の総額で45.4%、個人分が36.9%、法人分で8.5%、60年度が総額で46.8%、個人分が37.2%、法人分が9.6%、61年度が総額で44.7%、個人分が34.8%、法人分が9.9%、63年度が予算で市民税の総額が45.9%、個人分が35.4%、法人分が10.5%です。

これに対しまして、固定資産税は、48年度32.7%、59年度も同じ32.7%、60年度が32.4%、61年度で36%、63年度で34%と大きな動きはありません。ほかの諸税につきましては、たばこ消費税は48年度決算で10.3%が年々下降し、63年度予算案で

は5.9%となっております。ほかは小幅な変動であります。

このうち、市民税の個人分について、産業分類から考えますと、私も正確な資料がありませんが、給与所得者と他の産業より得る所得者の割合はいろいろな資料を総合して推計いたしますと、給与所得がそのうちの85%程度、他の産業が約15%程度でないかと思います。また、固定資産税は、持ち家比率の新しいものでありませんので、あくまで推計ですが、営業所得者と給与所得者に区分した場合、約7割が給与所得者の持ち分でないかと思います。

総合しますと、給与所得者の税負担の割合は非常に高率となり、ために給与所得者の消費的支出は大幅に減少し、先ほど申し上げましたように商品販売額は県下の市で最低の伸びとなっているんじゃないかと思われる。このような悪循環を断ち切り、その区分に応じる税負担で市税収入が調定されるようにするために、思い切った産業経済費の投入が考えられなければならないと思いますが、この点市長はどうお考えかお伺いをいたします。

次に、第2点、JR館山駅の改築方を促進されたいということでございます。

聞くとおるところによりますと、昭和40年後半から50年代にかけてしばしば議会でも取り上げられ、正確ではないかも知れませんが、当時橋上駅として2億円程度負担してもらえないかということであって、話の進め方では今すぐ着工するという風評があったように思いますが、その後途絶えて10年以上も経過しており、駅舎の傷みも相当大きくなってきていると見られます。

内房線の各駅を見ますと、常に手を加えられており、なかんずく鴨川駅は、数年前にホームの架橋を新設したのに続き、その反対方向に各架橋工事が行われており、今回は海側と反対側の区画整理後の広場にも乗降口が設けられるようではありますが、当館山駅を市はどう考えているだろうかと素朴な質問をしたくなる現状であります。

市長は、就任後、コミュニティに関心を持ち、活力ある文化福祉都市を将来像として挙げておりますが、現在、駅は公共の空間としての役割を担っており、市民共有のものとして自分たちの施設としての利用をし

ており、それなりの文化を持っていると考えますが、当市は、もっとも基本と考えられる館山市総合計画には、「鉄道の整備」として「利用客の利便性及び安全性を高める国鉄館山駅の橋上駅舎建設を促進する」と低いレベルでしか考えておりません。

また、「中心市街地の整備について、館山駅を中心とする地域は、本市の中心地区として、橋上駅の建設等東西の一体性を確保することに努めるとともに居住環境の改善を図りながら」云々と乗降口が東口と西口にできれば事足りるというようにとれる書き方ではありますが、私は館山駅は単にＪＲの館山駅としての一つの建造物と考えないで、館山駅も含めて考える再開発事業でなければならないと考えます。

これは前の質問でちょっと触れたことがありますが、館山駅の乗降口が改築の際、若干左右どちらかにずれてでき上がったとき、人の流れはがらりと変わり、全然考えられなかったことが実現するかもわかりません。市側は十分検討したと思いますが、当事者は本当に死活問題というよりは多大な借財を背負い、市よりもつらい日を送るようなこともなきにしもあらずです。

それゆえに、最優先事業として館山駅の改築を取り上げ、観光館山の表玄関としてふさわしい橋上駅ぶりを、俗にいう民衆駅として、テナント企画もあわせて、東口再開発事業の局面打開のためにも、商業センター的スペースも含め、ＪＲ側と総合的な計画を市として強力に呼びかけ、検討、実行すべきであると思うが、この点、市長はどう考えているかお伺いしたいと存じます。

さらに、民衆駅として市の外郭団体等に管理、運営させても採算上経営はできると思いますが、このような点について検討したことがあるかどうかあわせてお伺いいたします。

以上、２点の質問を終わりますが、御答弁によりまして質問させていただきます。よろしく願いを申し上げます。

（市長半澤良一君登壇）

◎市長（半澤良一君） 山中議員の御質問にお答えいたします。

大きな第１点の御質問は、御趣旨は、産業重視施策に今後どのように取り組んでいくかということのように拝察いたしましたが、現在、当地

域では東京湾横断道路に代表される国、県のビッグプロジェクトが展開され、大きな時代の転換期を迎えております。このインパクトをいかに受けとめ、地域の振興を図るかが大きな課題であります。このために館山市総合計画の中で、地域振興対策の柱として海洋性リゾートタウンの建設を掲げているわけでございます。

しかしながら、海洋性リゾートタウン建設を進め、地域の振興を図るためには、道路や水資源などの産業や生活の基盤整備を図ることが最も重要な課題であると考えておりますし、それに加えて安房郡市の中核都市として館山駅周辺市街地の都市改造を推進するなど、魅力ある商店街の形成や都市空間を創出して、地域イメージの向上を図らなければならない重要な時期に当面していると考えております。

今後とも、このような認識のもとに、リゾート開発を核に地域産業の振興、新たな企業誘致などの地域振興対策を重点に取り組んでまいり所存でございます。

次に、第2点、J R 館山駅の改築促進についてという御質問でございます。

御趣旨は、館山駅を駅前再開発の局面打開策として民衆駅化の考えはないかという御質問と受け取りましたが、J R 館山駅について、計画的には、基本的に館山駅東口地区再開発、西口地区区画整理事業等を含む館山駅周辺市街地整備計画の中に位置づけ、東西両地区の一体性を確保するためのものとしてJ R との協議を行いながら、その計画推進を図っているところでございます。

駅舎を民衆駅とすることにつきましては、現在、東口地区で合意形成を得るため地元権利者との話し合いをしております再開発事業計画、旧国鉄及びJ R との従来からの協議の中でのその意向、また民衆駅建設に伴い生ずる商業床と既存店舗等との調整問題等を考えますと、現段階では困難であろうと考えております。

市といたしましては、総合計画に基づき今後ともJ R との協議を続けながら、御指摘のとおり観光館山の玄関口としてふさわしい、橋上駅舎建設等の実現に努めてまいりたいと考えております。

以上、答弁を終わります。

○ 13 番（山中金治郎君） 基本的な問題でございますので、何か答弁が非常に難しいかと思いますが、あと簡単に 2、3 再質問させていただきます。

1 つ目は、何かリゾート開発にからんで 5 カ所ほど載っているようにございますけれども、その最初の一つアトラクティブ鏡ヶ浦というのがここにあります、その内容を知らしていただきたいと思います。

○ 経済部長（安西良一君） アトラクティブ鏡ヶ浦計画という内容でございますが、リゾート整備について国が法を論議し、県におきましても検討を進める中で、海洋性リゾートのまちづくりを目指すということであって、当市にあってもいち早くこの部門の研究を行いまして、北条、あるいは館山の海浜地域の整備についてこのような名称のもとに研究をしておるものでございます。

内容といたしましては、館山駅の東口、西口地区の整備を含めまして街路の整備とか、あるいは都市下水路の整備、それに海浜整備等の公共事業となっております。内容は大体そんなところでございます。

また、街路につきましては、都市計画道路の八幡高井線、あるいは通称海岸道路と言っております船形館山線、それに排水路の関係では三軒町排水路、北条海岸排水路、これらがその中の内容でございます。

以上です。

○ 13 番（山中金治郎君） 先ほどの質問の答弁で、公共事業の負担は検討中ということでございましたが、前回の議会でも出ておりましたが、道路交通網の整備が非常に遅れておる、それにかわってということで、漁業者の立場を考えながら海岸の埋め立てと海上交通を考えてみたらどうかという提案がございました。私も観光客を誘致するには最適ではないかと考えておるものでございますので、その後、当局でその問題について検討されているかどうか。検討されていればその経過をお聞かせ願いたいと思います。

○ 経済部長（安西良一君） 海上交通に取り組んでいるのかどうかという御質問でございますけれども、海上交通を開設するということは、現在館山市のリゾート研究会を通しまして、その採算性とか、あるいは事業化について企業を含めまして検討をしておるところでございます。

また、これを実施することは、いわゆる公有水面の利用問題等もございますので、関係する漁業関係者、また、あそこは港湾地域でもございますので、それらの関係の方々とも協議をいたしまして、これからさらに検討を進め、でき得れば推進をしていきたいというような考え方を持っております。

◎ 13 番（山中金治郎君） その海上交通の問題ですが、私も 2、3 調べてみましたが、会社はいろんなことがあるから申し上げませんが、高速艇を利用すると館山～久里浜が 30 分、ですから、それから京浜急行を使うと館山～東京が 1 時間半、しかも料金が J R より安いということです。正確な額はここで申し上げませんが、非常に安い。ですから時間がずっと早くて料金は今の J R 料金よりもずっと安いということのようですので、ぜひ私はこういうことは取り上げて検討を早急に進めていただきたいと思います。

もちろん、伊豆半島とか、伊豆七島とか、館山を起点として交通網ができれば、私は観光業者の立場として非常に館山に観光客が流れ込んでくるんじゃないかということを思っておりますので、ぜひそれは早急に検討を進めていただきたいと思います。もちろん、海で生活する人の立場はきちんと考えなくちゃいけないと思いますので、その辺もあわせて御検討願いたいと思います。

それから、御答弁を聞いておりますと、いろんなことをやる前に、まず道路網とか、水資源の問題を解決しなくちゃしょうがないんだということで、それを先に取り組んでいくということでございますけれども、私はそれより、まずすばらしい、大勢の人を館山に引き付ける、大きな観光の目玉をまずつくるべきだと思う。そうすれば、大勢の人たちが何とかして館山に行こうという機運でハンドル持って出かけてくる。始終交通が渋滞しておれば黙っております。声が大きくなってくる。そうすれば道路を管理している監督官庁の方で早く館山に着けるような道路網の整備ということは当然手がけてくるわけでございますので、私はそのようなよそにないようなすばらしい観光資源をつくってほしいと思います。

そこで、今、ここで答弁ということじゃございませんが、私は前にも

申し上げたことがあります。ひとつ海の中からすばらしい日本一の噴水をあげてもらいたい。海の中へ——これは奇想天外のように聞えるかも知れませんが、100mの滝が、夜、100mのところに虹ができる、それがわずか3億8000万でできるんです。この間、私はある大手企業の人と話し合った、そうしたら「山中さん、どうせやるんなら今、世界一が、最近アメリカに160mというのができた。今まではスイスのレマン湖で130m。ですから、100mであればもちろん日本一だけれども、それを3本くらいやってくれ。そうすれば3本やっても10億足らずでできるんですから、館山に押すな押すなの人が集まってくるぞ。そうすれば私のところもいろんな利用がふえてくるので、1億ぐらいの金は寄附します」ということで、非常に前向きなことを言ってるんです。ですから、私はそういうことを考えているだけじゃなくて、ひとつ前向きにそれを進めてもらいたいと思います。

聞くとところによると、県や上部公共団体の補助も、観光資源の開発で条件によれば3分の2ぐらいはつくという人もおるわけです。ですから、それらも御検討願って、何とか早く、そういうすばらしい夢のような観光資源をつくってもらうように進めることをお願いをいたします。

それから、次の、2点目の、館山駅の改築の問題ですが、私は、駅周辺の再開発というのは、まず駅を手がけてから西、東の開発に取り組むのが私は筋のような気がしております。

そこでお伺いしますが、JRと過去協議されたようでございますけれども、最近協議されたことがあるのか、何回ぐらい協議されたかお伺いをいたしたいと思います。

○経済部長（安西良一君） お答えいたします。

62年度におきましては、9月3日、11月6日、11月9日、3回でございます。以上です。

○13番（山中金治郎君） それはこういったような内容ですか。

○経済部長（安西良一君） この内容につきましては、9月3日が自由通路についての打ち合わせでございます。それから、11月6日も自由通路についてとそれから橋上駅についてという2つのことを主体といたしまして協議をしております。それから、11月9日におきましては、

自由通路を設計する場合の打ち合わせといいたいしょうか、見積もりの方法、それらについての協議をしております。

以上でございます。

◎13番（山中金治郎君） 私は、駅舎を民衆駅という形で提案をいたしました、何か答弁によりますと、そういうことは商業の床面積や既存の店舗等の調整問題が非常に難しいということでありましたけれども、駅を利用する人たちが食堂とかショッピングに利用するという程度であれば、私はそう難しくはならないように思えるけれども、その辺はどうですか。

◎経済部長（安西良一君） 現段階ではそれらのことについては検討した経緯がございません。以上です。

◎13番（山中金治郎君） 私は、駅の改築、それも民衆駅のような形にした方が、東口の今、再開発問題で非常に難航しているようでございますが、ある面ではその人たちのこともここにあわせて考えていけば、東口の再開発が少し前進するんじゃないかと思っておりますけれども、その辺はどうですか。

◎経済部長（安西良一君） 東口の再開発の関係でございますが、これらの事業に関しましては地元の権利者の合意というのが一番大切なことでございます。したがって、合意形成を得ながら進めていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

◎13番（山中金治郎君） 考え方が基本的に違いますので、結論は得られないと思いますが、私は、東口の再開発問題を円満に解決する上でも、やはりこういうような駅の問題を含めて検討した方がスムーズにいくように考えておりますので、今後、この問題を話し合うにつきまして、先ほど御答弁の中にあったように、本当の観光館山にふさわしい駅にしたいということもございますので、できれば館山城のような形を取り入れた素晴らしい民衆駅を考えながら、東口の再開発問題あわせて進めていただきたいと思います。ぜひ、そういう方向でお願いをいたします。

終わります。

◎議長（飯田義男君） 以上で13番議員山中金治郎君の質問を終わり

ます。

延 会 午後2時38分

○議長（飯田義男君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

次会は、3月9日午前10時開会とし、その議事は本日に引き続き通告による行政一般質問を行います。

この際、申し上げます。一般議案、補正予算に対する質疑通告の締め切りは3月9日正午でありますので、申し添えます。

○本日の会議に付した事件

1 行政一般通告質問

